令和３年度

男女共同参画社会に関する

アンケート調査報告書

令和４年（２０２２年）3月

茅ヶ崎市

目次

第１章　調査の概要 ･･････ 1
１　調査の目的 ･･････ 1
２　調査の方法 ･･････ 1
３　回収結果 ･･････ 1
４　調査結果の見方 ･･････ 1

第２章　調査結果の詳細 ･･････ 2
１　回答者の属性 ･･････ 2
２　各設問の調査結果 ･･････ 4
（１）男女共同参画に関する用語の認知度 ･･････ 4
①男女共同参画社会基本法 ･･････ 4
②女性活躍推進法 ･･････ 5
③ちがさき男女共同参画推進プラン ･･････ 6
④茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした男女共同参画社会の形成に向けた取組 ･･････ 7
⑤女性のための相談室 ･･････ 8
⑥メディア・リテラシー ･･････ 9
⑦ジェンダー平等 ･･････ 10
（２）生活における「仕事」「家庭生活」「地域生活」「個人生活」の優先度について ･･････ 11
（３）男女の地位の平等の考え方について ･･････ 14
（４）「男は仕事、女は家庭」という考え方について ･･････ 17
（５）男女ともに家事・子育て・介護などに参加するために必要なことについて ･･････ 18
（６）今後、男女があらゆる分野で平等になるために重要だと思うことについて ･･････ 20
（７）一般的に女性が職業を持つことについて ･･････ 21
（８）女性が働き続けるために必要なことについて ･･････ 22
（９）配偶者・パートナー間における暴力行為の考え方について ･･････ 26
（10）配偶者・パートナー間における暴力の経験について ･･････ 29
（11）女性が妊娠・出産等について自ら決定することについて ･･････ 34

第３章　調査結果のまとめ ･･････ 35

資料編 ･･････ 37

第１章　調査の概要

第１章　調査の概要

１ 調査の目的

この調査は、男女共同参画社会に関する市民の意識を把握し、今後の茅ヶ崎市の男女共同参画の施策に反映させるための基礎資料とすることを目的として実施しました。

２ 調査の方法

（１）調査地域：茅ヶ崎市全域

（２）調査対象：市内在住の１８歳以上の男女１，３００人

（３）抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出

（４）調査方法：郵送配布・郵送回収（封書）またはインターネット回答

（５）調査期間：令和４年１月４日（火）から１月３１日（月）まで（当日消印有効）

３ 回収結果

（１）配　布　数：１,３００

（２）有効回収数：５７４（封書：４５２・インターネット：１２２）

（３）有効回収率：４４．２％

４ 調査結果の見方

（１）図表中のＮは、回答者数のことです。

（２）回答は全てＮを基数とした百分率で表し、小数点第二位を四捨五入しました。このため、百分率の合計が１００％にならない場合があります。

（３）集計の結果の表やグラフでは、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合があります。

第 2 章　調査結果の詳細

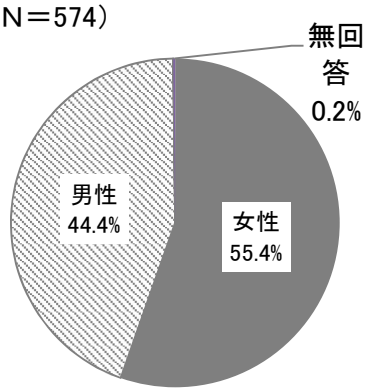
第２章　調査結果の詳細

１　回答者の属性

（１）性別

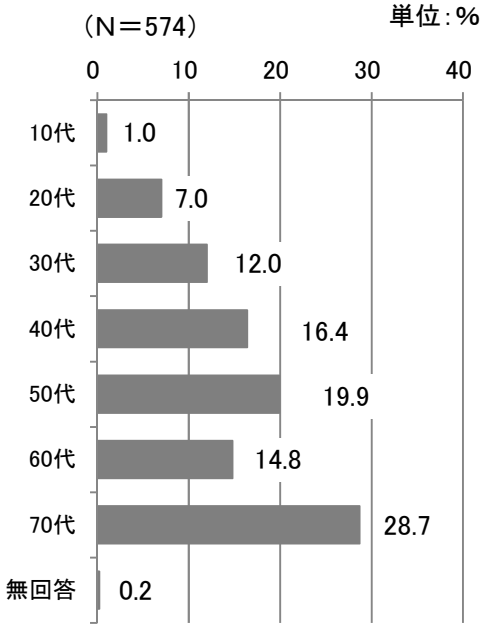
性別	件数	%
女性	318	55.4
男性	255	44.4
その他	0	0
無回答	1	0.2
合計（回答者数Ｎ）	574	100.0

全体（Ｎ＝574）



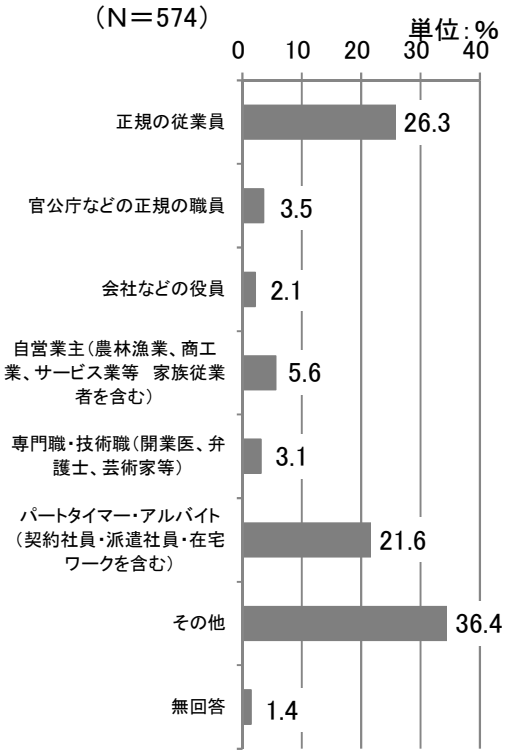
（２）年代

年代	件数	%
10代	6	1.0
20代	40	7.0
30代	69	12.0
40代	94	16.4
50代	114	19.9
60代	85	14.8
70代	165	28.7
無回答	1	0.2
合計（回答者数Ｎ）	574	100.0



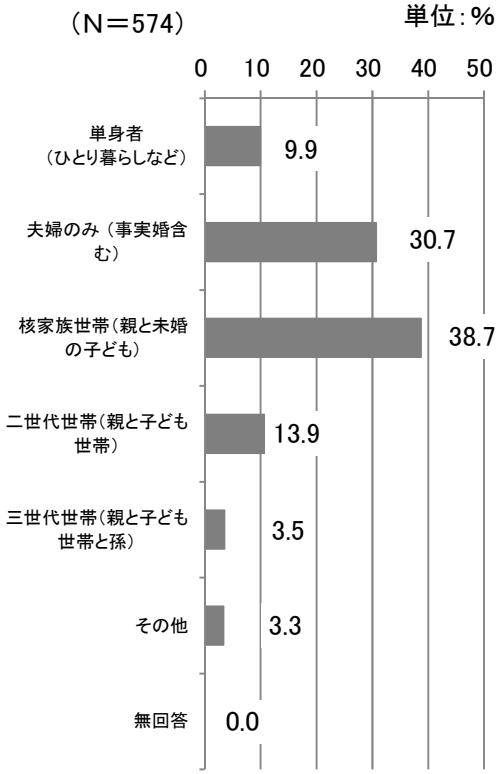
（３）職業

職業	件数	%
正規の従業員	151	26.3
官公庁などの正規の職員	20	3.5
会社などの役員	12	2.1
自営業主（農林漁業、商工業、サービス業等　家族従業者を含む）	32	5.6
専門職・技術職（開業医、弁護士、芸術家等）	18	3.1
パートタイマー・アルバイト（契約社員・派遣社員・在宅ワークを含む）	124	21.6
その他	209	36.4
無回答	8	1.4
合計（回答者数Ｎ）	574	100.0



（４）家族構成

家族構成	件数	%
単身者（ひとり暮らしなど）	57	9.9
夫婦のみ　（事実婚含む）	176	30.7
核家族世帯（親と未婚の子ども）	222	38.7
二世代世帯（親と子ども世帯）	80	13.9
三世代世帯（親と子ども世帯と孫）	20	3.5
その他	19	3.3
無回答	0	0.0
合計（回答者数Ｎ）	574	100.0



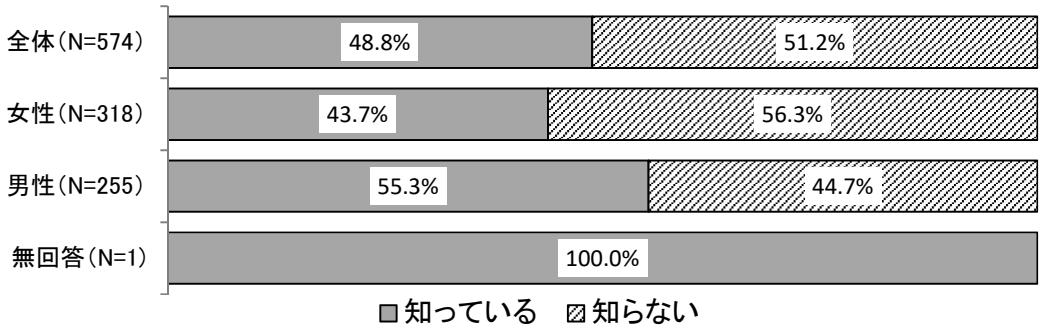
２ 各設問の調査結果

（1） 男女共同参画に関する用語の認知度

問５　次のうち、知っている言葉や取組にすべて○をしてください。

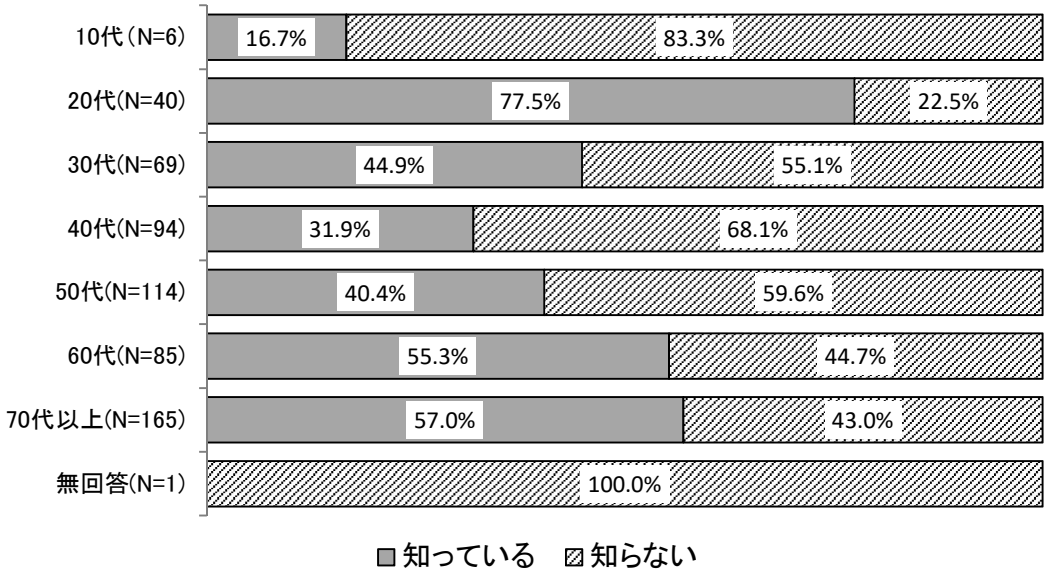
１男女共同参画社会基本法、２女性活躍推進法、３ちがさき男女共同参画推進プラン、４茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組、５女性のための相談室、６メディア・リテラシー、７ジェンダー平等

①男女共同参画社会基本法



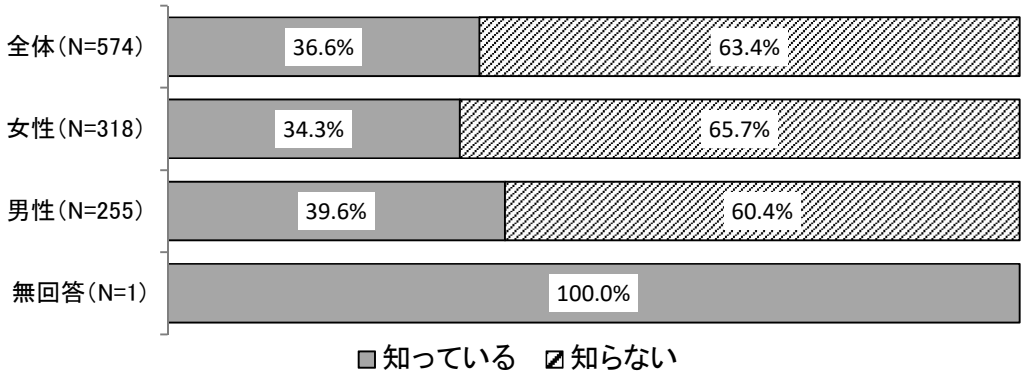
［全体の傾向］
「男女共同参画社会基本法」の全体の認知度について、「知っている」と回答した割合は48.8%と約半数を占めています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が43.7%、男性が55.3%で、女性が男性より11.6ポイント低くなっています。



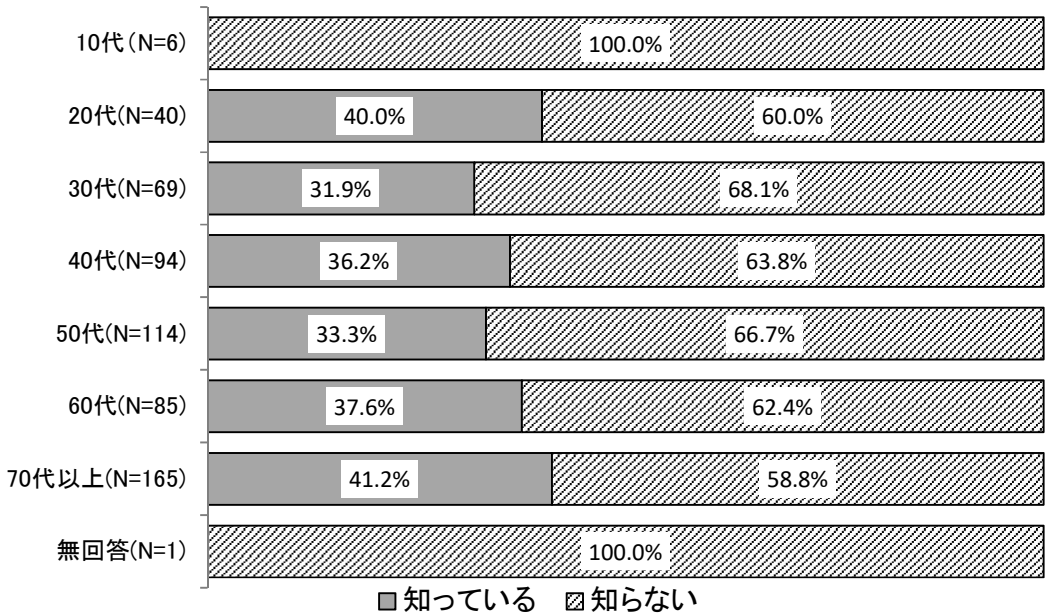
［年代別の傾向］
年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、20代が77.5%で最も高く、70代以上（57.0%）、60代（55.3%）が続きます10代は16.7%、40代は31.9%と低くなっています。

②女性活躍推進法



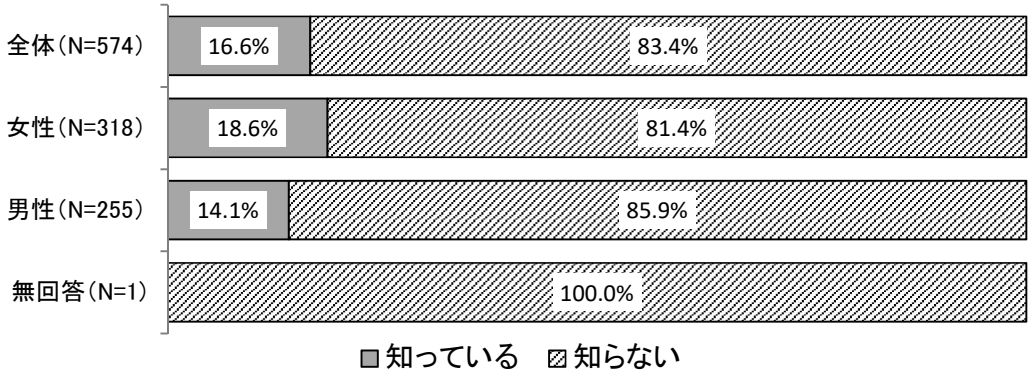
［全体の傾向］
「女性活躍推進法」については、「知っている」と回答した割合が概ね40%となっています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が34.3%、男性が39.6%で、女性が男性より5.3ポイント低くなっています。



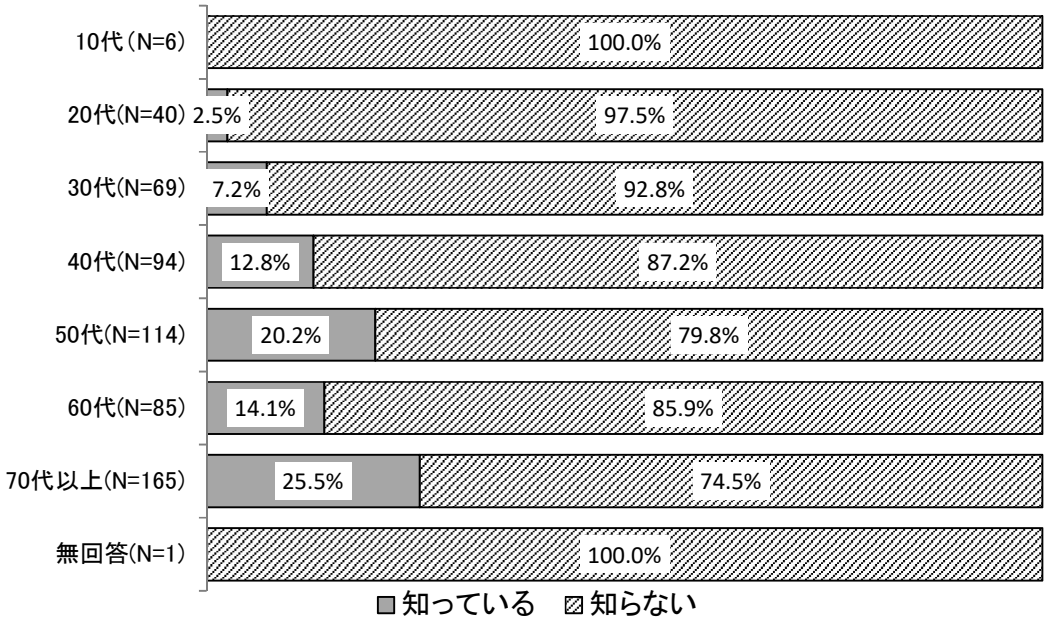
［年代別の傾向］
年代で大きな差はなく、10代を除く全ての年代で40%程度という結果になっています。

③ちがさき男女共同参画推進プラン



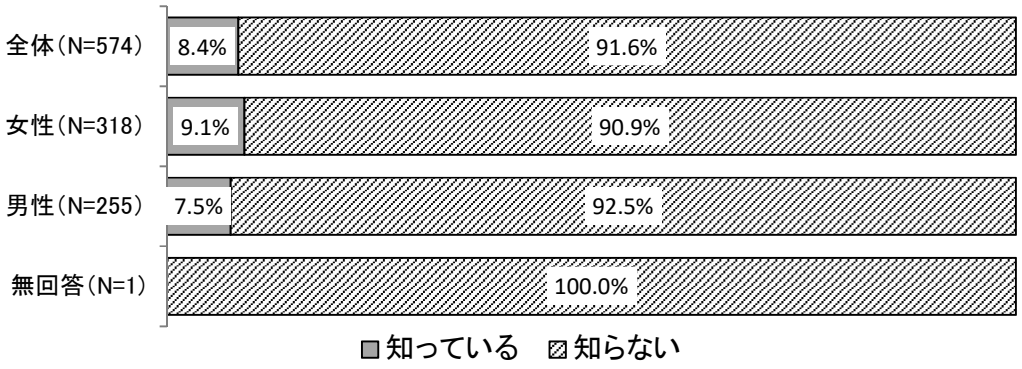
［全体の傾向］
「ちがさき男女共同参画推進プラン」については、認知度が低く、「知っている」と回答した割合は、20%を下回っています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が18.6%、男性が14.1%で、男性が女性より4.5ポイント低くなっています。



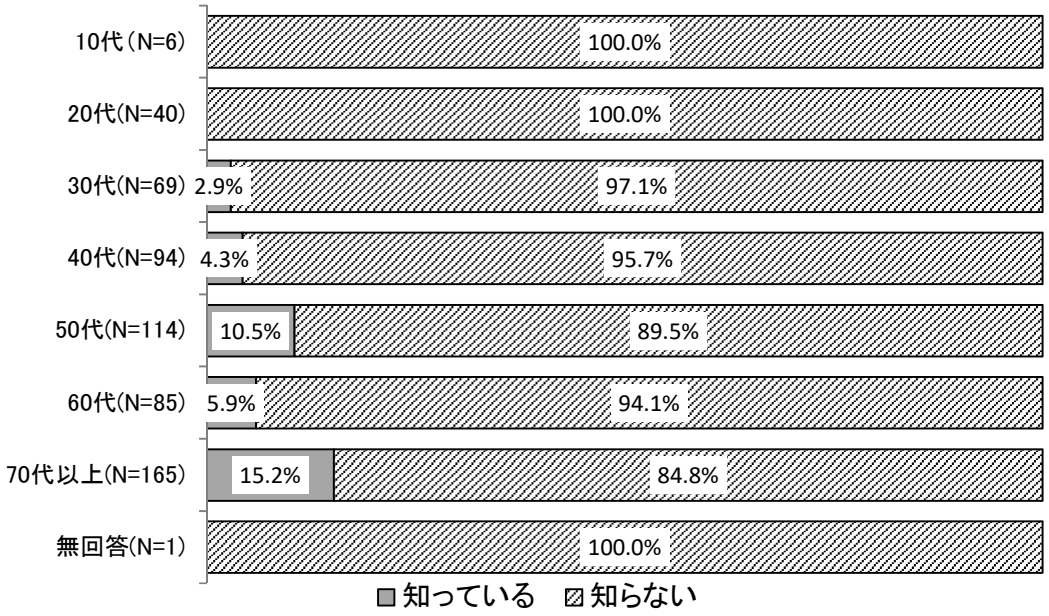
［年代別の傾向］
年代別で見ると、全ての年代で認知度が低く、最も認知度が高い70代でも25.5%という結果になっています。

④茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組



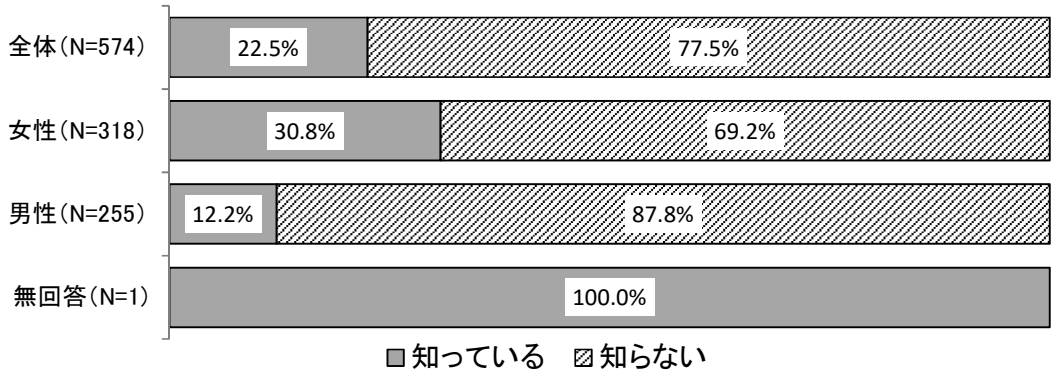
［全体の傾向］
「茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組」については、認知度が低く、「知っている」と回答した割合は8.4%となっています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が9.1%、男性が7.5%で、どちらも低い結果になっています。



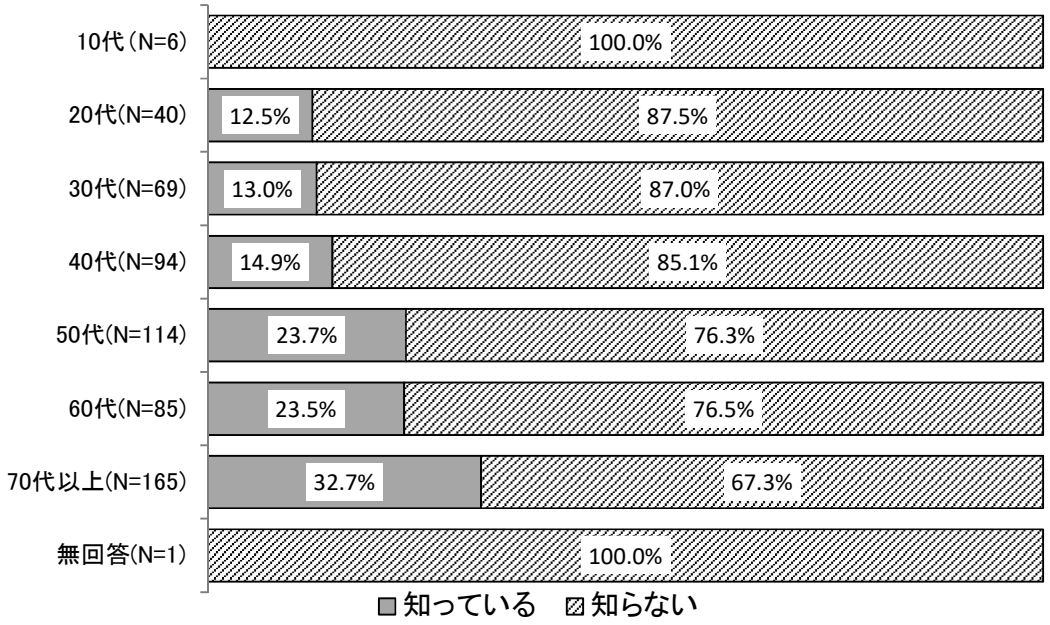
［年代別の傾向］
年代別で見ると、全ての年代で認知度が低く、最も認知度が高い70代でも15.2%という結果になっています。

⑤女性のための相談室



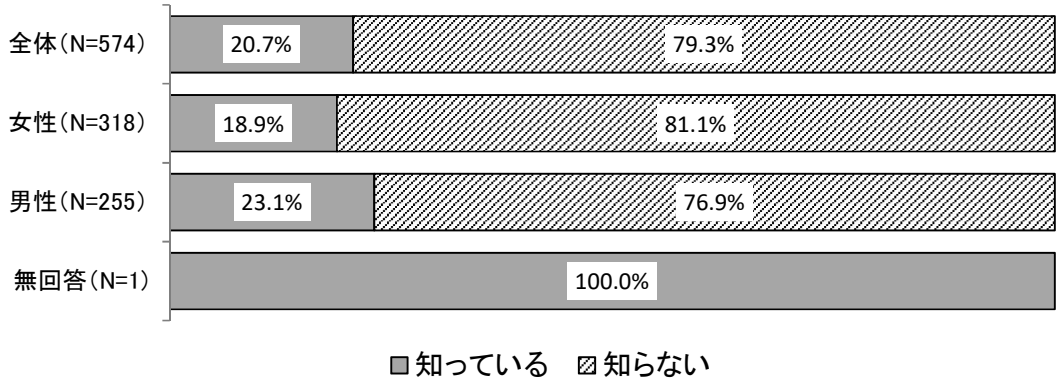
［全体の傾向］
「女性のための相談室」の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合が22.5%となっています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が30.8%、男性が12.2%で、男性が女性より18.6ポイント低くなっています。



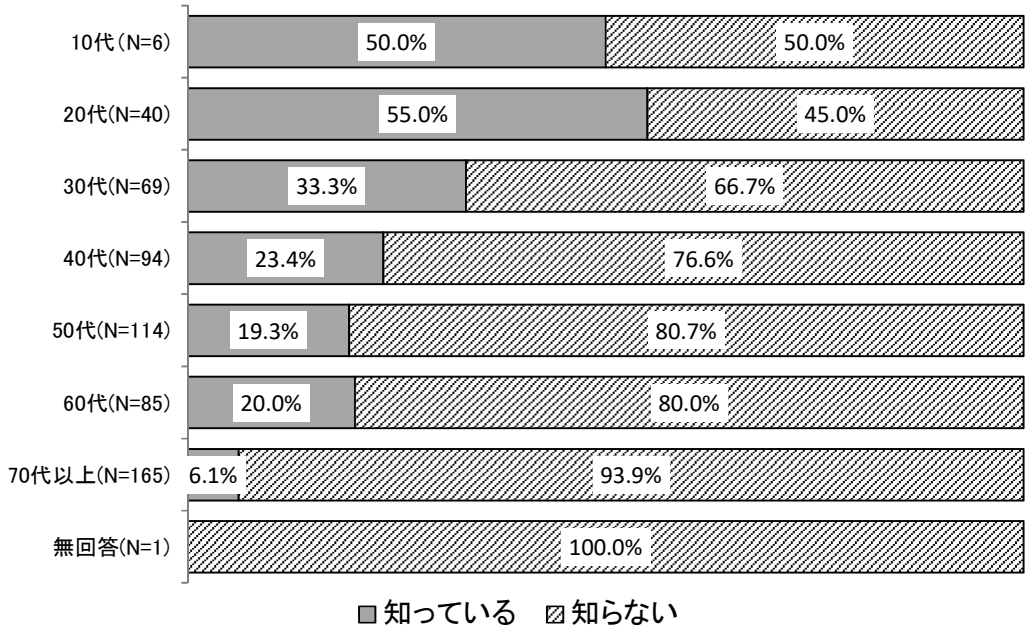
［年代別の傾向］
年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、70代以上が32.7%で最も高く、50代（23.7%）、60代（23.5%）が続きます。

⑥メディア・リテラシー



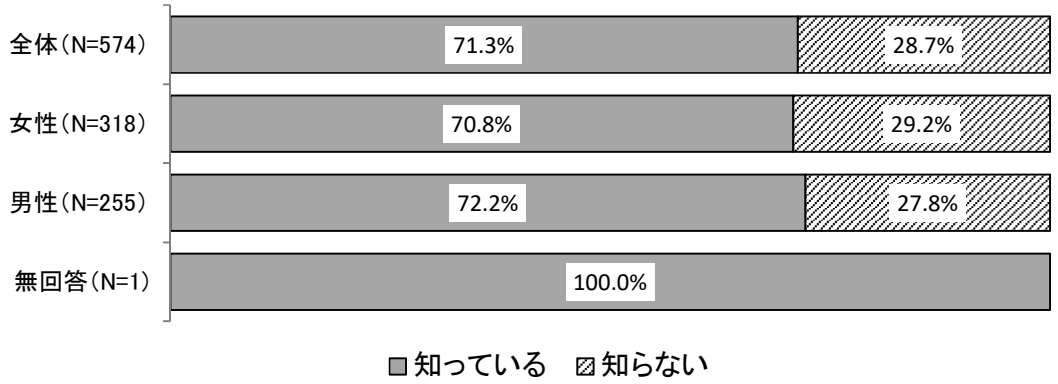
［全体の傾向］
「メディア・リテラシー」の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合が20.7%となっています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が18.9%、男性が23.1%で、女性が男性より4.2ポイント低くなっています。



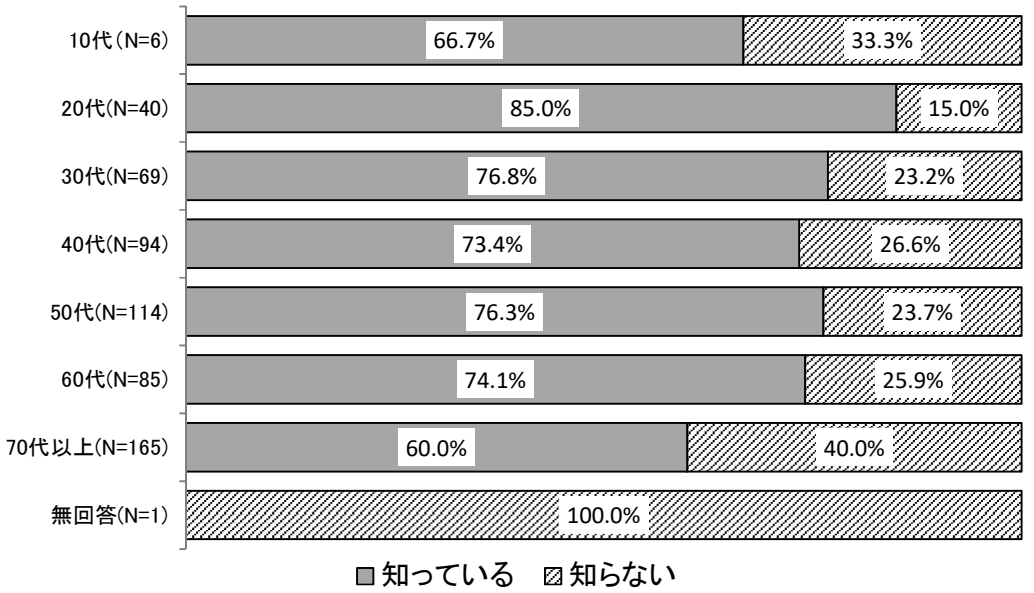
［年代別の傾向］
年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、20代が55.0%と最も高く、10代（50.0%）、30代（33.3%）が続きます。

⑦ジェンダー平等



［全体の傾向］
「ジェンダー平等」の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合が71.3%となっています。

［男女別の傾向］
性別で見ると、「知っている」と回答した割合は、女性が70.8%、男性が72.2%で、性別による差はあまり見られません。

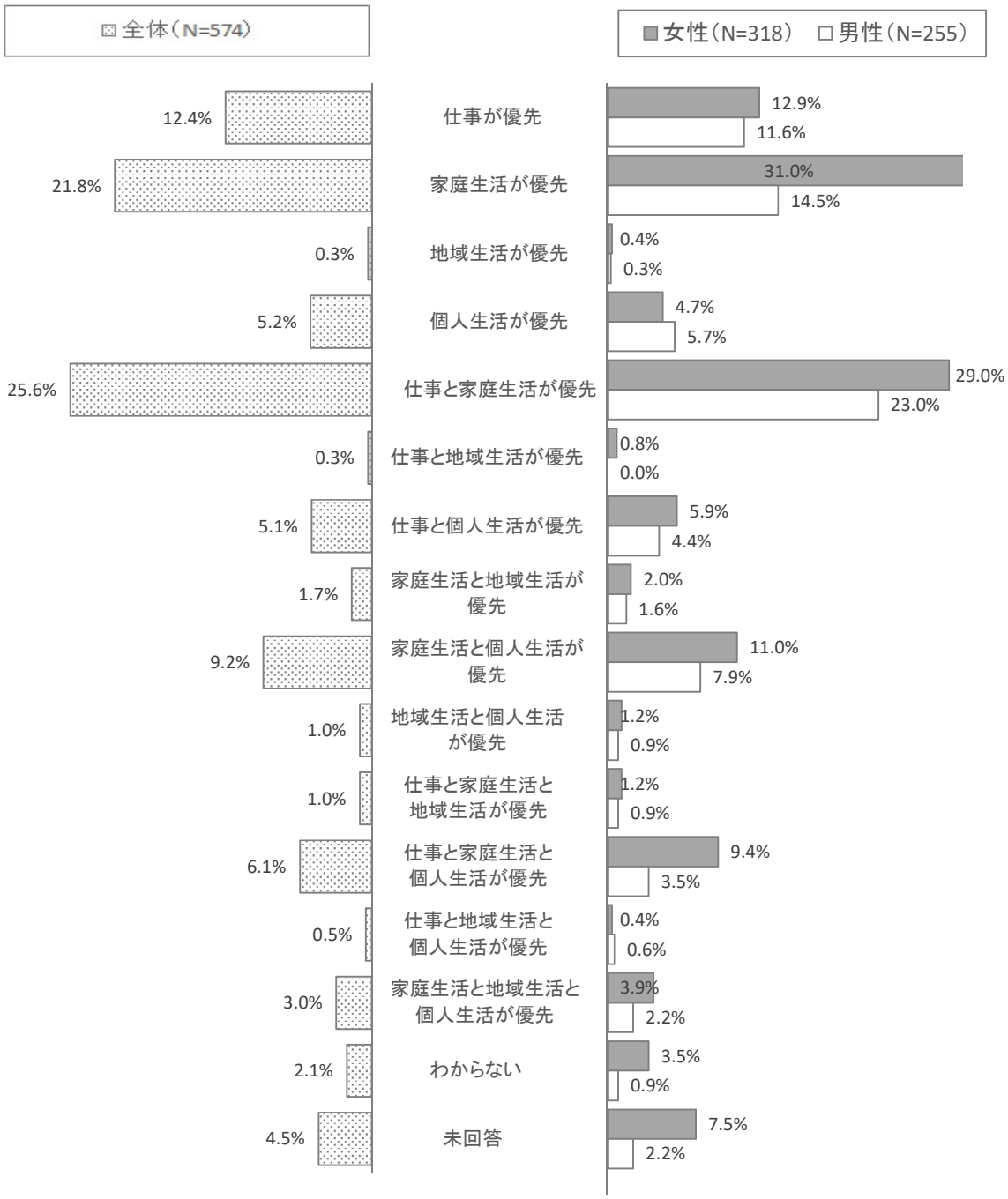


［年代別の傾向］
年代別で見ると、「知っている」と回答した割合は、20代が85.0%と最も高く、30代（76.8%）、50代（76.3%）が続きます。

（2） 生活における「仕事」、「家庭生活」、「地域生活」、「個人生活」の優先度について

問６　あなたの生活での「仕事」、「家庭生活」、「地域生活」、「個人生活」の優先度について、あなたの現実に最も近い項目を選んでください。

現実

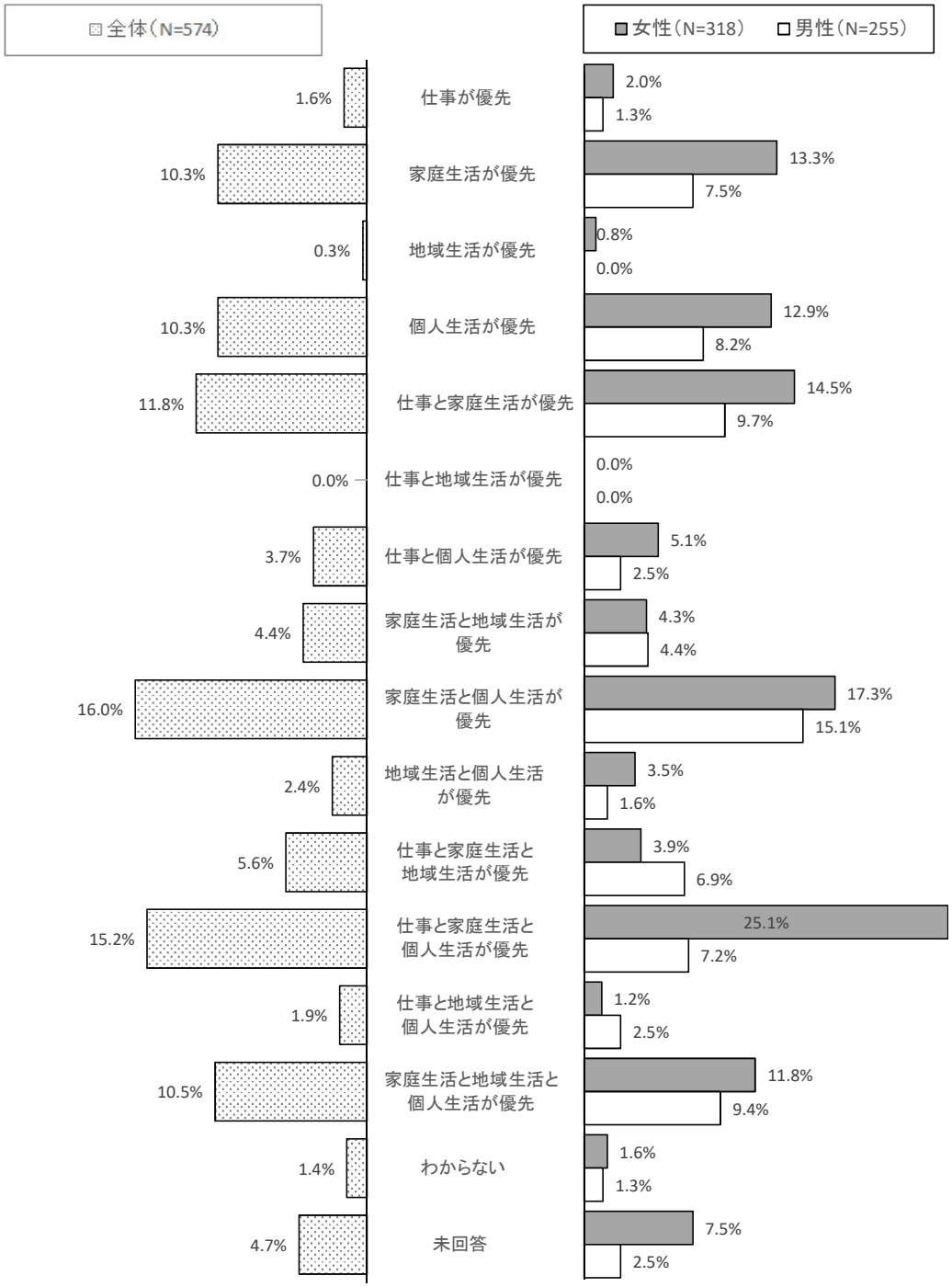


［全体の傾向］
　現実での生活の優先度については、「仕事と家庭生活が優先」と回答した割合が25.6%で最も高く、「家庭生活」（21.8%）、「仕事が優先」（12.4%）と続いています。

［男女別の傾向］
　性別で見ると、男女間で最も差が見られたのは、「家庭生活が優先」の回答で、女性が31.0%、男性が14.5%となっており、女性が男性より16.5ポイント高くなっています。

問６　あなたの生活での「仕事」、「家庭生活」、「地域生活」、「個人生活」の優先度について、あなたの希望に最も近い項目を選んでください。

希望



［全体の傾向］
　希望する生活の優先度について、「家庭生活と個人生活が優先」が、最も希望に近い項目と回答した割合は、16.0%で最も高く、「仕事と家庭生活と個人生活が優先」（15.2%）、「仕事と家庭生活が優先」（11.8%）と続いています。

［男女別の傾向］
　性別で見ると、「仕事と家庭生活と個人生活が優先」と回答した割合は、女性が25.1%、男性が7.2%で、女性が男性より17.9ポイント高くなっており、男女間で最も差が見られました。

現実	仕事が優先	家庭生活が優先	地域生活が優先	個人生活が優先	仕事と家庭生活が優先	仕事と地域生活が優先	仕事と個人生活が優先	家庭生活と地域生活が優先
10代	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%
20代	12.5%	7.5%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%	20.0%	0.0%
30代	18.8%	14.5%	0.0%	1.4%	34.8%	0.0%	4.3%	1.4%
40代	12.8%	21.3%	0.0%	1.1%	30.9%	0.0%	7.4%	3.2%
50代	20.2%	15.8%	0.9%	0.9%	38.6%	0.0%	1.8%	0.0%
60代	10.6%	20.0%	0.0%	9.4%	30.6%	2.4%	5.9%	1.2%
70代以上	5.5%	33.3%	0.6%	6.7%	7.9%	0.0%	2.4%	2.4%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	家庭生活と個人生活が優先	地域生活と個人生活が優先	仕事と家庭生活と地域生活が優先	仕事と家庭生活と個人生活が優先	仕事と地域生活と個人生活が優先	家庭生活と地域生活と個人生活が優先	わからない	未回答
10代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	7.3%	0.0%	0.0%	12.2%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%
30代	5.8%	0.0%	0.0%	11.6%	0.0%	2.9%	2.9%	1.4%
40代	5.3%	0.0%	3.2%	9.6%	2.1%	0.0%	3.2%	0.0%
50代	7.1%	0.9%	1.8%	8.0%	0.0%	0.9%	1.8%	1.8%
60代	5.9%	1.2%	1.2%	3.5%	0.0%	3.5%	0.0%	4.7%
70代以上	17.0%	2.4%	0.0%	0.6%	0.6%	6.7%	2.4%	11.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

希望	仕事が優先	家庭生活が優先	地域生活が優先	個人生活が優先	仕事と家庭生活が優先	仕事と地域生活が優先	仕事と個人生活が優先	家庭生活と地域生活が優先
10代	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	2.5%	7.5%	0.0%	22.5%	10.0%	0.0%	7.5%	2.5%
30代	5.8%	15.9%	1.4%	13.0%	24.6%	0.0%	4.3%	2.9%
40代	1.1%	18.1%	0.0%	3.2%	14.9%	0.0%	4.3%	3.2%
50代	0.9%	8.8%	0.9%	7.0%	16.7%	0.0%	1.8%	2.6%
60代	2.4%	8.2%	0.0%	12.9%	8.2%	0.0%	7.1%	2.4%
70代以上	0.0%	6.7%	0.0%	9.7%	3.6%	0.0%	1.2%	8.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	家庭生活と個人生活が優先	地域生活と個人生活が優先	仕事と家庭生活と地域生活が優先	仕事と家庭生活と個人生活が優先	仕事と地域生活と個人生活が優先	家庭生活と地域生活と個人生活が優先	わからない	未回答
10代	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	24.4%	2.4%	0.0%	14.6%	2.4%	0.0%	2.4%	0.0%
30代	11.6%	0.0%	2.9%	14.5%	0.0%	1.4%	0.0%	1.4%
40代	12.8%	1.1%	3.2%	24.5%	3.2%	7.4%	3.2%	0.0%
50代	16.8%	1.8%	6.2%	27.4%	2.7%	4.4%	0.0%	2.7%
60代	10.6%	1.2%	11.8%	11.8%	2.4%	15.3%	0.0%	5.9%
70代以上	19.4%	5.5%	6.1%	4.2%	1.2%	20.6%	2.4%	10.9%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

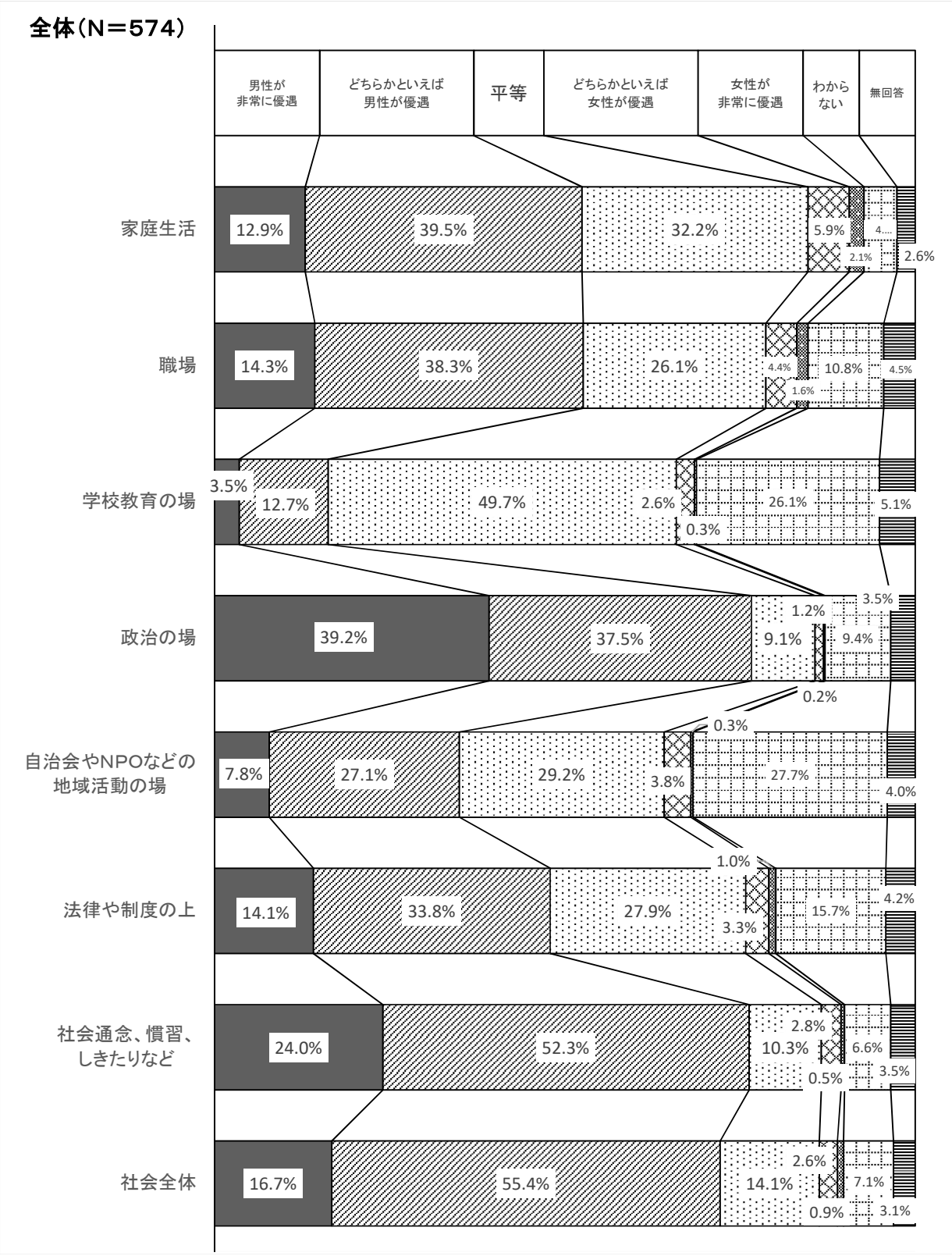
［年代別の傾向］

『現実』は、「仕事と家庭生活が優先」と回答した割合が、全ての年代で高い割合を占めています。また、「個人生活が優先」と回答した割合が、10代、20代で高くなっています。

『希望』は、「家庭生活と個人生活が優先」、「仕事と家庭生活と個人生活が優先」と回答した割合は、多くの年代で高い割合を占めています。また、「個人生活が優先」と回答した割合が、10代、20代で特に高くなっています。

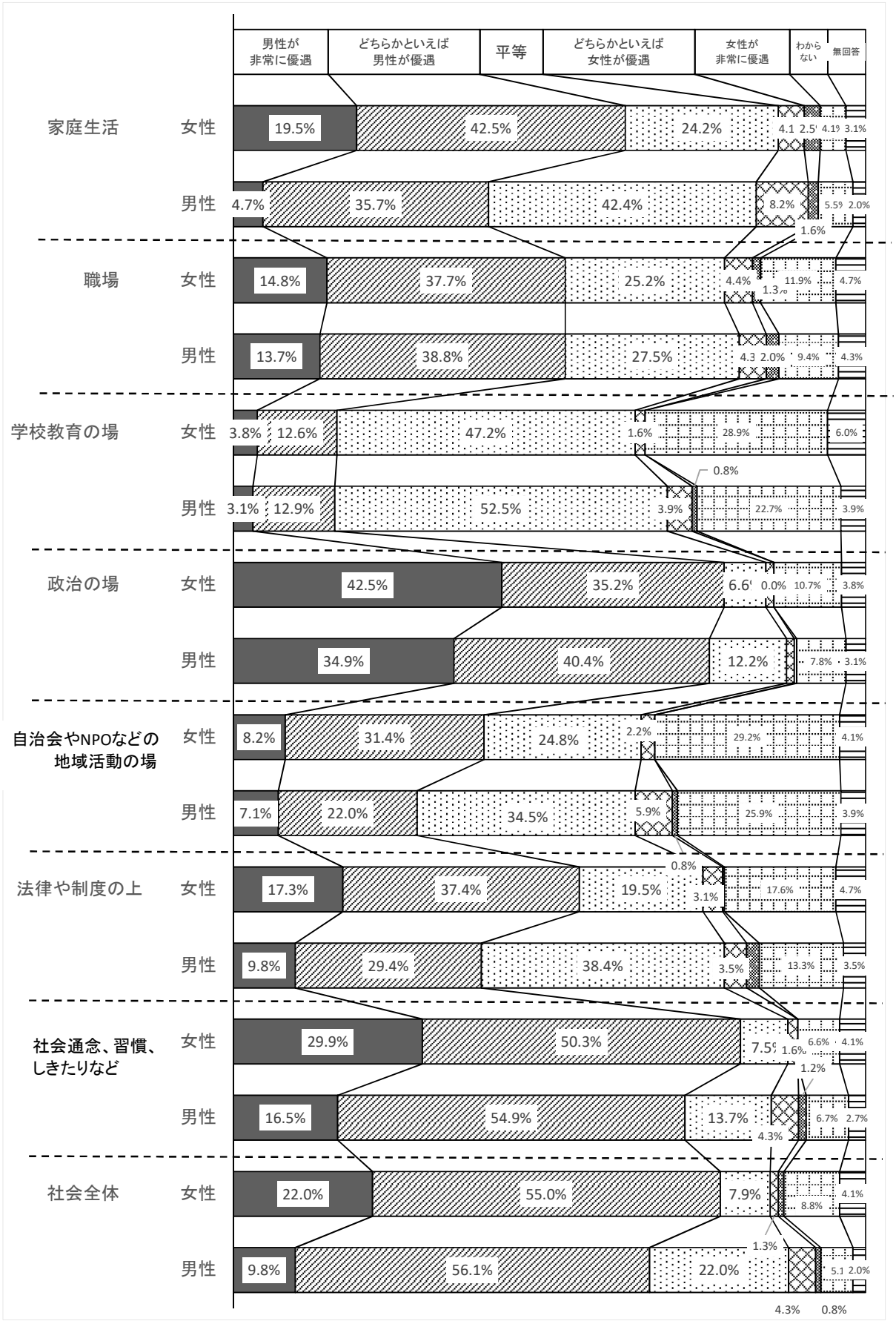
（3） 男女の地位の平等の考え方について

問７　あなたは、次のような分野において男女の地位は平等になっていると思いますか。



［全体の傾向］

男女の地位については、「学校教育の場」では「平等」と回答した割合が49.7%となっている一方、全体としては、多くの場面で男性の方が優遇されていると感じている割合が高い傾向にあります。



［男女別の傾向］

性別で見ると、男女ともに、特に「政治の場」、「社会通念、慣習、しきたりなど」、「社会全体」において、男性の方が優遇されていると感じている割合が高い傾向にあります。

[男女・年代別の傾向]

① 家庭生活	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	2.5%	35.0%	47.5%	12.5%	0.0%	2.5%	0.0%
30代	20.3%	29.0%	37.7%	2.9%	5.8%	2.9%	1.4%
40代	18.1%	42.6%	28.7%	4.3%	1.1%	4.3%	1.1%
50代	18.4%	36.0%	34.2%	5.3%	0.9%	4.4%	0.9%
60代	4.7%	50.6%	31.8%	4.7%	0.0%	4.7%	3.5%
70代以上	10.3%	41.2%	25.5%	7.9%	3.6%	6.1%	5.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

② 職場	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
20代	5.0%	35.0%	40.0%	7.5%	2.5%	10.0%	0.0%
30代	11.6%	39.1%	34.8%	7.2%	2.9%	2.9%	1.4%
40代	14.9%	33.0%	37.2%	6.4%	2.1%	6.4%	0.0%
50代	12.3%	47.4%	26.3%	7.0%	1.8%	4.4%	0.9%
60代	14.1%	44.7%	27.1%	0.0%	1.2%	8.2%	4.7%
70代以上	19.6%	34.2%	13.3%	1.9%	0.6%	22.2%	8.2%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

③ 学校教育の場	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
20代	5.0%	10.0%	55.0%	10.0%	2.5%	17.5%	0.0%
30代	7.2%	10.1%	58.0%	2.9%	1.4%	17.4%	2.9%
40代	4.3%	7.4%	54.3%	5.3%	0.0%	28.7%	0.0%
50代	2.6%	9.6%	62.3%	1.8%	0.0%	22.8%	0.9%
60代	2.4%	25.9%	36.5%	0.0%	0.0%	25.9%	9.4%
70代以上	2.4%	12.7%	40.0%	1.2%	0.0%	32.7%	10.9%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

④ 政治の場	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
20代	42.5%	25.0%	20.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
30代	42.0%	30.4%	11.6%	2.9%	0.0%	10.1%	2.9%
40代	45.7%	33.0%	5.3%	3.2%	0.0%	12.8%	0.0%
50代	36.0%	48.2%	9.6%	0.9%	0.9%	3.5%	0.9%
60代	43.5%	36.5%	7.1%	0.0%	0.0%	8.2%	4.7%
70代以上	33.9%	39.4%	7.9%	0.6%	0.0%	10.3%	7.9%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

⑤ 自治会やNPOなどの地域活動の場	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	83.3%	0.0%
20代	7.5%	10.0%	27.5%	2.5%	0.0%	52.5%	0.0%
30代	8.7%	24.6%	26.1%	7.2%	0.0%	30.4%	2.9%
40代	10.6%	27.7%	26.6%	2.1%	0.0%	33.0%	0.0%
50代	9.6%	29.8%	33.3%	2.6%	0.9%	22.8%	0.9%
60代	7.1%	31.8%	25.9%	3.5%	0.0%	25.9%	5.9%
70代以上	5.5%	29.1%	31.5%	4.8%	0.6%	20.0%	8.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

⑥ 法律や制度の上	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
20代	12.5%	32.5%	25.0%	12.5%	2.5%	15.0%	0.0%
30代	17.4%	21.7%	33.3%	1.4%	1.4%	21.7%	2.9%
40代	12.8%	38.3%	20.2%	2.1%	3.2%	21.3%	2.1%
50代	14.0%	39.5%	29.8%	5.3%	0.9%	9.6%	0.9%
60代	20.0%	42.4%	23.5%	1.2%	0.0%	8.2%	4.7%
70代以上	11.5%	29.1%	31.5%	2.4%	0.0%	17.0%	8.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

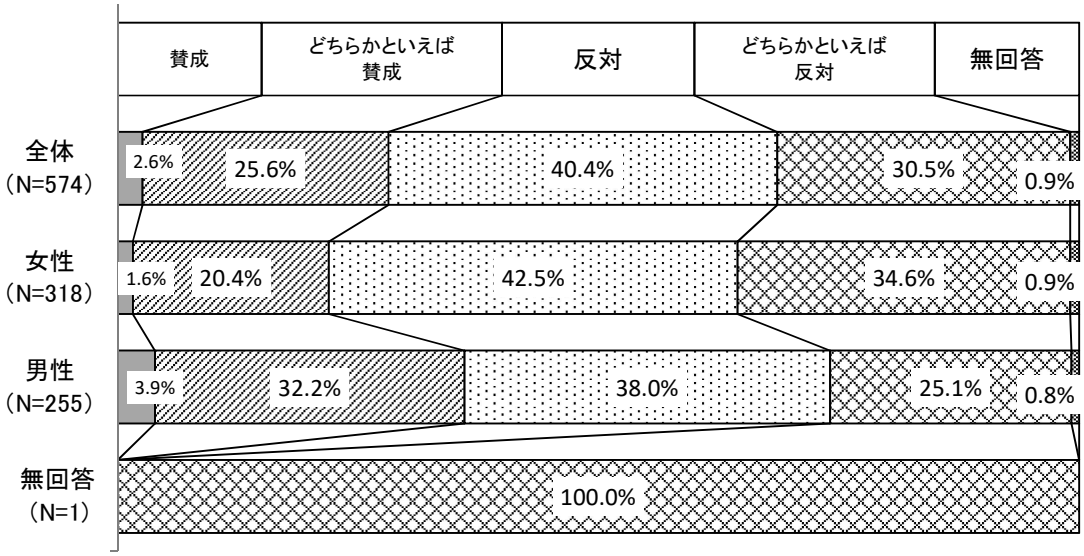
⑦ 社会通念、慣習、しきたりなど	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	25.0%	40.0%	15.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%
30代	27.5%	50.7%	5.8%	2.9%	2.9%	8.7%	1.4%
40代	39.4%	41.5%	5.3%	3.2%	1.1%	9.6%	0.0%
50代	22.8%	56.1%	11.4%	1.8%	0.0%	6.1%	1.8%
60代	28.2%	63.5%	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	4.7%
70代以上	13.3%	53.3%	16.4%	2.4%	0.0%	6.7%	7.9%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

⑧ 社会全体	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
10代	0.0%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
20代	7.5%	52.5%	25.0%	2.5%	2.5%	7.5%	2.5%
30代	23.2%	53.6%	7.2%	4.3%	1.4%	8.7%	1.4%
40代	21.3%	55.3%	9.6%	4.3%	1.1%	8.5%	0.0%
50代	18.4%	57.9%	16.7%	1.8%	1.8%	2.6%	0.9%
60代	21.2%	61.2%	8.2%	0.0%	0.0%	4.7%	4.7%
70代以上	10.9%	51.5%	18.8%	3.0%	0.0%	9.1%	6.7%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

多くの場面で、年代によらず、男性の方が優遇されていると感じている割合が高い傾向にあります。

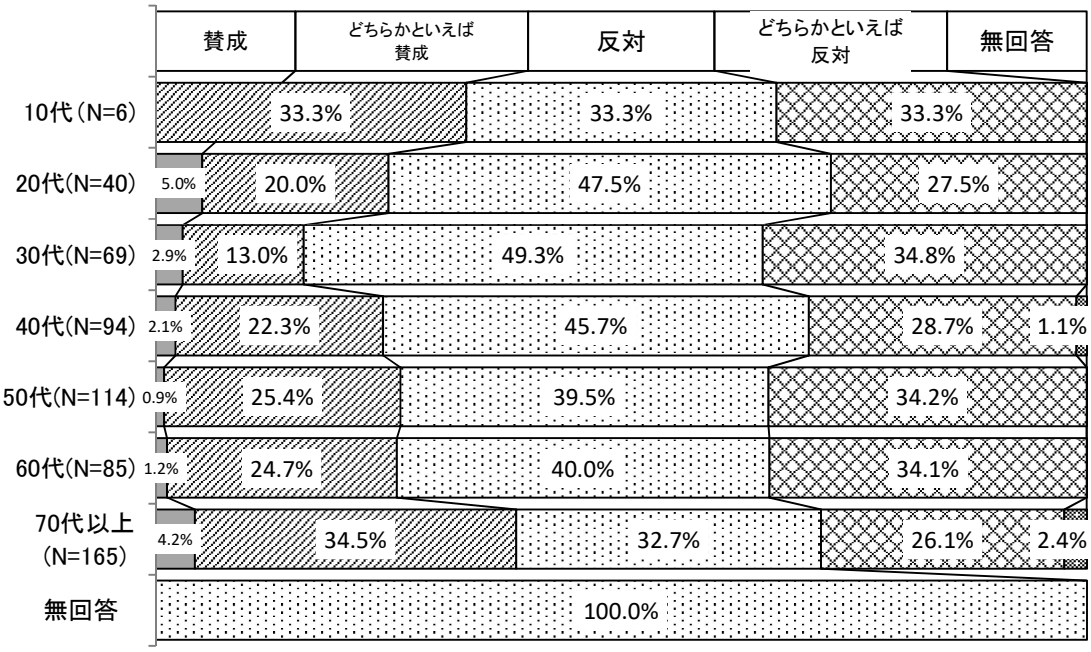
（4）「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問８　「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識について、どうお考えですか。



［全体の傾向］
　固定的性別役割分担意識については、「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した割合は、70.9%で、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合（28.2%）より42.7ポイント高くなっています。

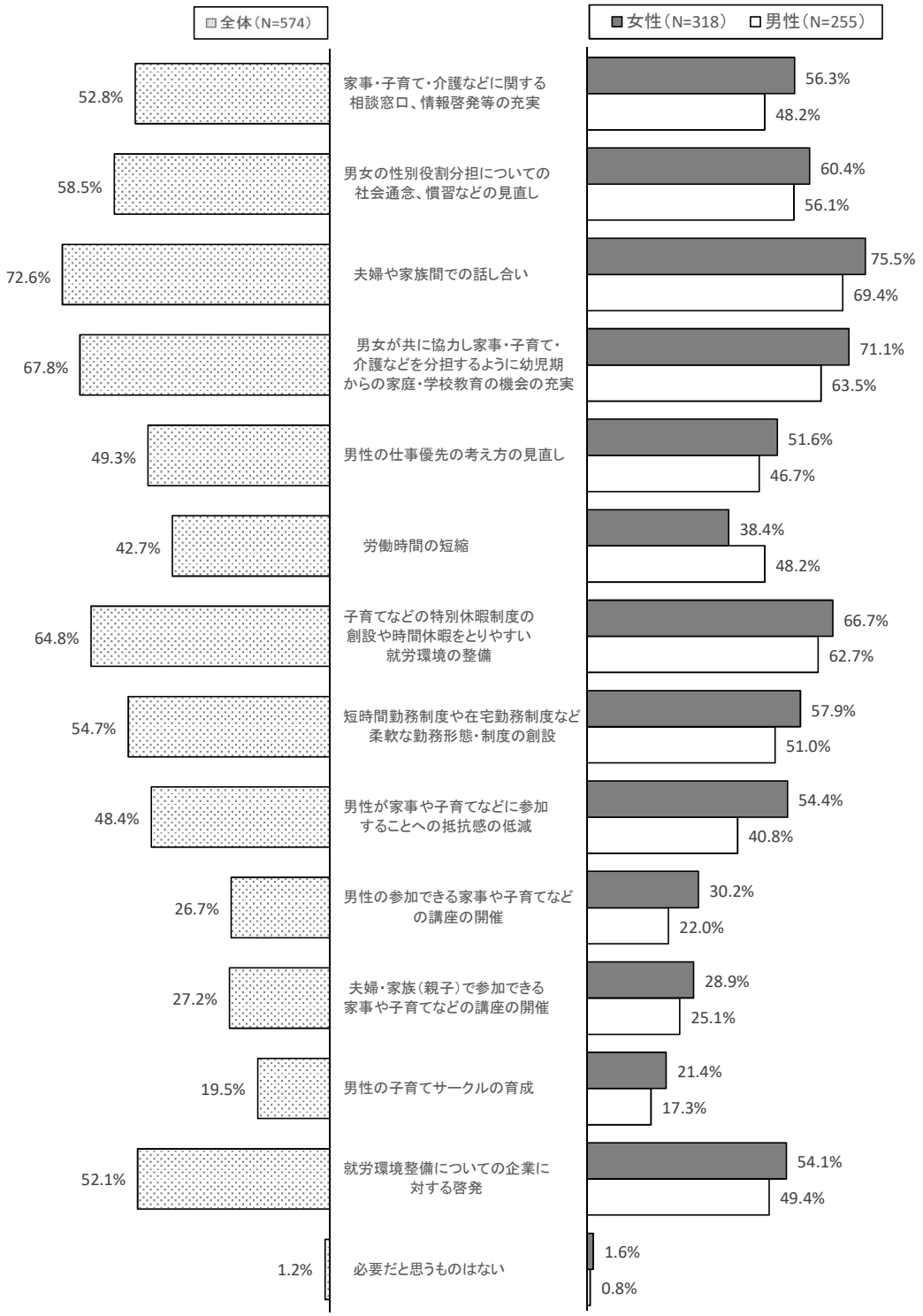
［男女別の傾向］
　性別で見ると、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、女性が22.0%、男性が36.1%で、男性が女性より14.1ポイント高くなっています。



［年代別の傾向］
　年代別で見ると、「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した割合は、30代が84.1%と最も高く、20代(75.0%)、40代(74.4%)が続きます。

（5） 男女ともに家事・子育て・介護などに参加するために必要なことについて

問９　あなたが、男女ともに家事・子育て・介護などに参加するために必要だと思うものをすべて選んでください。



［全体の傾向］

「夫婦や家族間での話し合い」が72.6%と最も高く、次いで「男女が共に協力し家事・子育て・介護などを分担するように幼児期からの家庭・学校教育の機会の充実」が67.8%、「子育てなどの特別休暇を取りやすい就労環境の整備」が64.8%となっています。

［男女別の傾向］

「労働時間の短縮」を除いた他すべての回答で、女性の回答比率が男性の回答比率よりも高くなっているます。

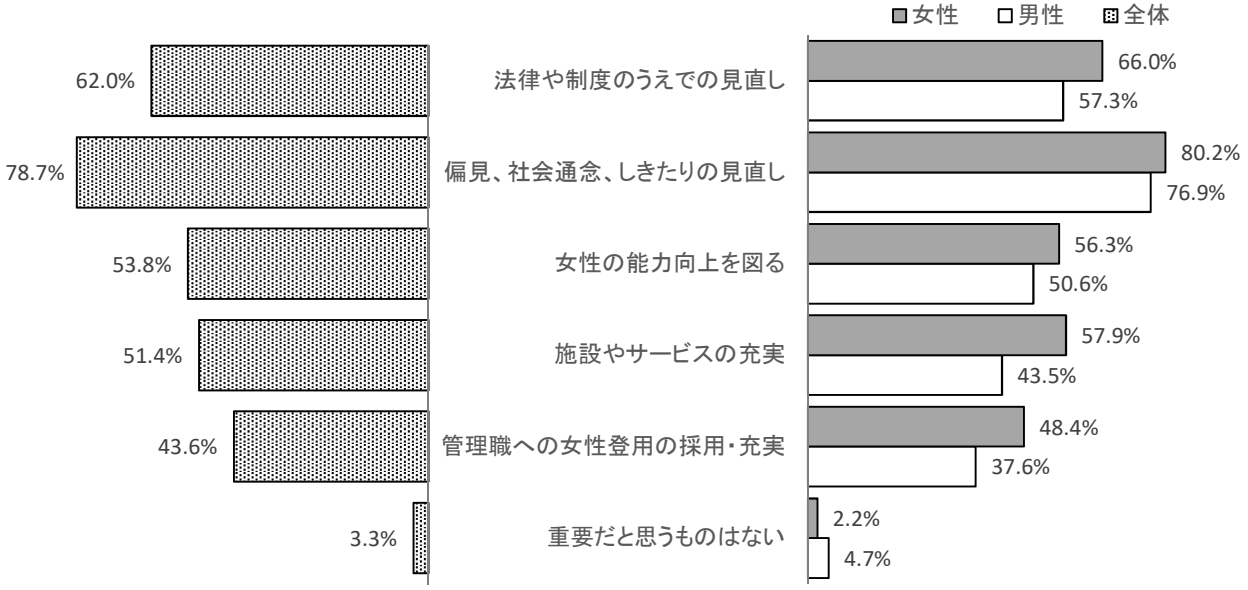
	家事・子育て・介護などに関する相談窓口、情報提供等の充実	男女の性別役割分担についての社会通念、慣習などの見直し	夫婦や家族間での話し合い	男女が共に協力し家事・子育て・介護などを分担するように幼児期からの家庭・学校教育の機会の充実	男性の仕事優先の考え方の見直し	労働時間の短縮	子育てなどの特別休暇制度の制度や時間休暇をとりやすい就労環境の整備	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの柔軟な勤務形態・制度の創設	男性が家事や子育てなどに参加することへの抵抗感の低減	男性の参加できる家事や子育てなどの講座の開催	夫婦・家族（親子）で参加できる家事や子育てなどの講座の開催	男性の子育てサークルの育成	就労環境優遇制についての企業に対する啓発	必要だと思うものはない
10代	0.0%	66.7%	50.0%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	50.0%	16.7%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%
20代	48.8%	58.5%	90.2%	56.1%	46.3%	65.9%	65.9%	61.0%	43.9%	29.3%	26.8%	17.1%	34.1%	0.0%
30代	42.0%	66.7%	78.3%	75.4%	59.4%	2.9%	72.5%	62.3%	60.9%	23.2%	26.1%	15.9%	49.3%	0.0%
40代	38.3%	60.6%	74.5%	59.6%	47.9%	52.1%	63.8%	55.3%	41.5%	20.2%	14.9%	10.6%	51.1%	1.1%
50代	54.9%	58.4%	77.9%	67.3%	51.3%	49.6%	57.5%	52.2%	46.9%	13.3%	16.8%	12.4%	46.9%	0.0%
60代	56.5%	58.8%	62.4%	71.8%	49.4%	43.5%	67.1%	57.6%	51.8%	29.4%	29.4%	23.5%	65.9%	2.4%
70代以上	65.5%	53.3%	67.9%	70.9%	47.3%	43.6%	67.9%	50.9%	47.9%	39.4%	41.2%	30.3%	55.8%	2.4%
無回答	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

［年代別の傾向］

10代から50代までは「夫婦や家族間での話し合い」の割合が他の回答と比較して最も高く、60代から70代以上は「男女が共に協力し家事・子育て・介護などを分担するように幼児期からの家庭・学校教育の機会の充実」が最も高くなっています。

（6） 今後、男女があらゆる分野で平等になるために重要だと思うことについて

問１０　今後、男女があらゆる分野で平等になるために重要だと思うものすべてに○をしてください。



[全体の傾向]
「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」と回答した割合が78.7%で最も高く、次いで「法律や制度のうえで見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」（62.0%）となっています。

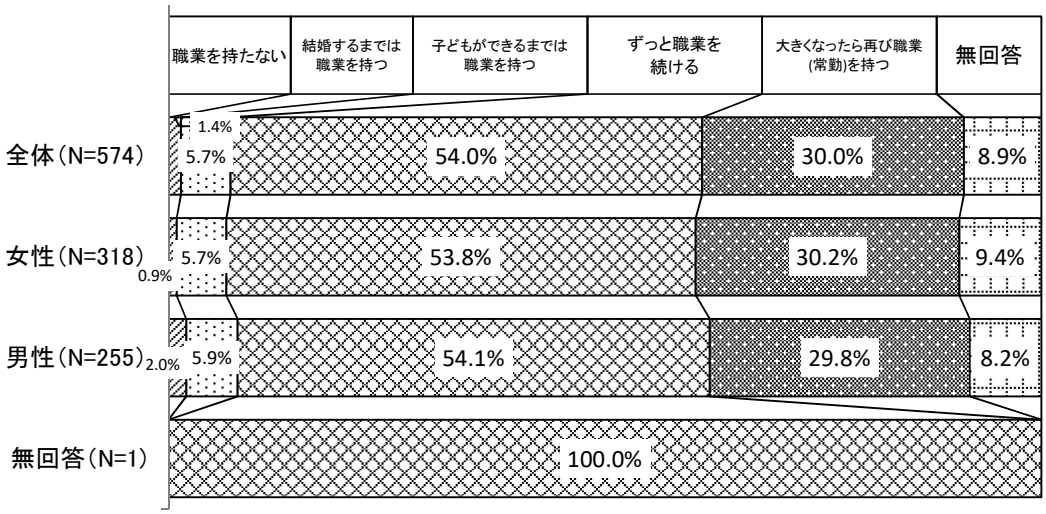
[男女別の傾向]
「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が男女ともに最も高いなど全体と傾向は同じですが、「重要だと思うものはない」以外全ての項目で、男性よりも女性が高くなっています。

	法律や制度のうえで見直し	偏見、社会通念、しきたり見直し	女性の能力向上を図る	施設やサービスの充実	管理職への女性登用の採用・充実	重要だと思うものはない
10代	0.3%	0.9%	0.7%	0.2%	0.3%	0.0%
20代	4.0%	5.6%	2.8%	2.3%	2.4%	0.3%
30代	6.8%	9.4%	5.6%	7.1%	4.9%	0.7%
40代	8.9%	14.1%	6.1%	7.3%	5.9%	0.7%
50代	11.5%	15.7%	11.1%	9.8%	6.6%	0.3%
60代	10.8%	11.0%	8.9%	7.8%	8.4%	0.3%
70代以上	19.5%	22.1%	18.5%	16.9%	15.0%	0.9%
未回答	0.2%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	62.0%	78.7%	53.8%	51.4%	43.6%	3.3%

[年代別の傾向]
「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」はすべての年代で割合が高くなっています。次いで10代では「女性が経済力をつけたり、技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること」、20代では「女性の就業、社会進出を支援する施設やサービスの充実を図ること」、その他の年代では「法律や制度のうえで見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」となっています。

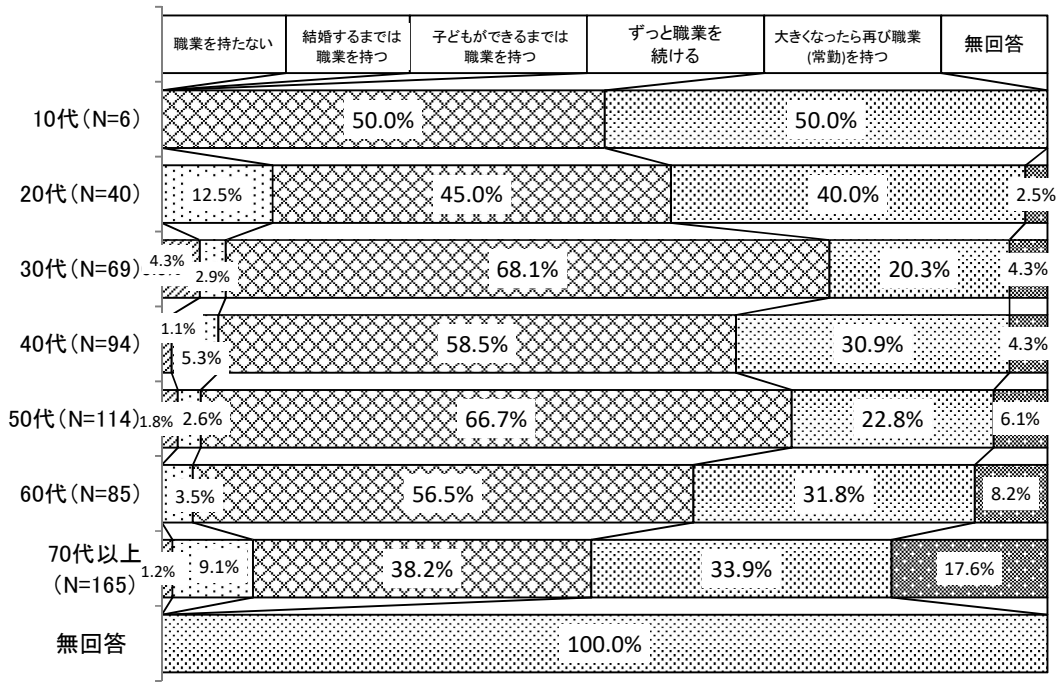
（7） 一般的に女性が職業を持つことについて

問１１　一般的に女性が職業を持つことについて、どうお考えですか。



［全体の傾向］
「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が54.0%で最も高く、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」（30.0%）が続きます。

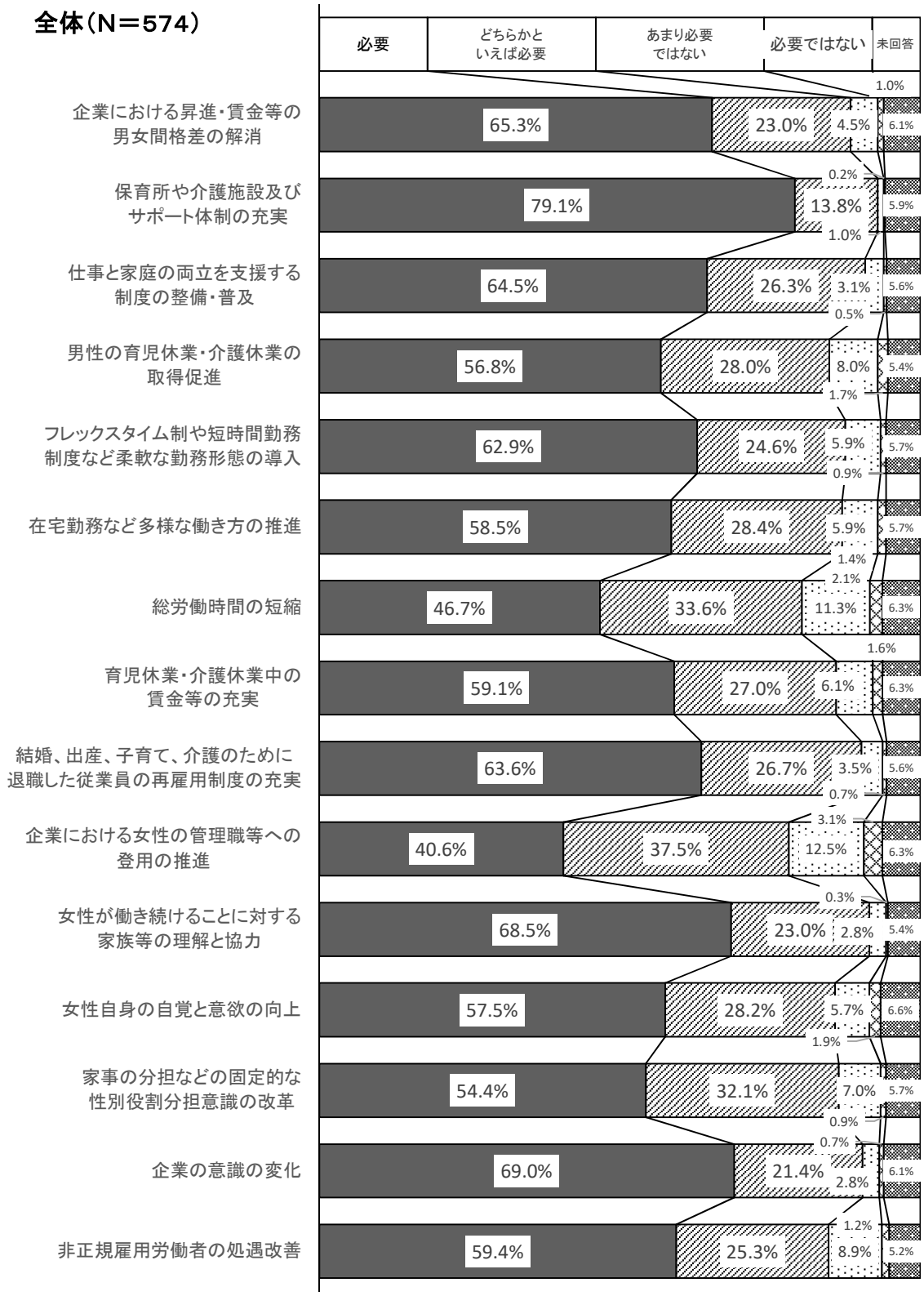
［男女別の傾向］
性別で見ると、男女共に、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が最も多く、女性が53.8%、男性が54.1%で、性別による大きな傾向の差は見られませんでした。



［年代別の傾向］
年代別で見ると、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合は、30代が68.1%で最も高く、50代（66.7%）、40代（58.5%）が続きます。また、「女性は職業を持たない方がよい」または「結婚するまでは職業を持つ方がよい」と回答した割合は、全ての年代で5%未満と低くなっています。

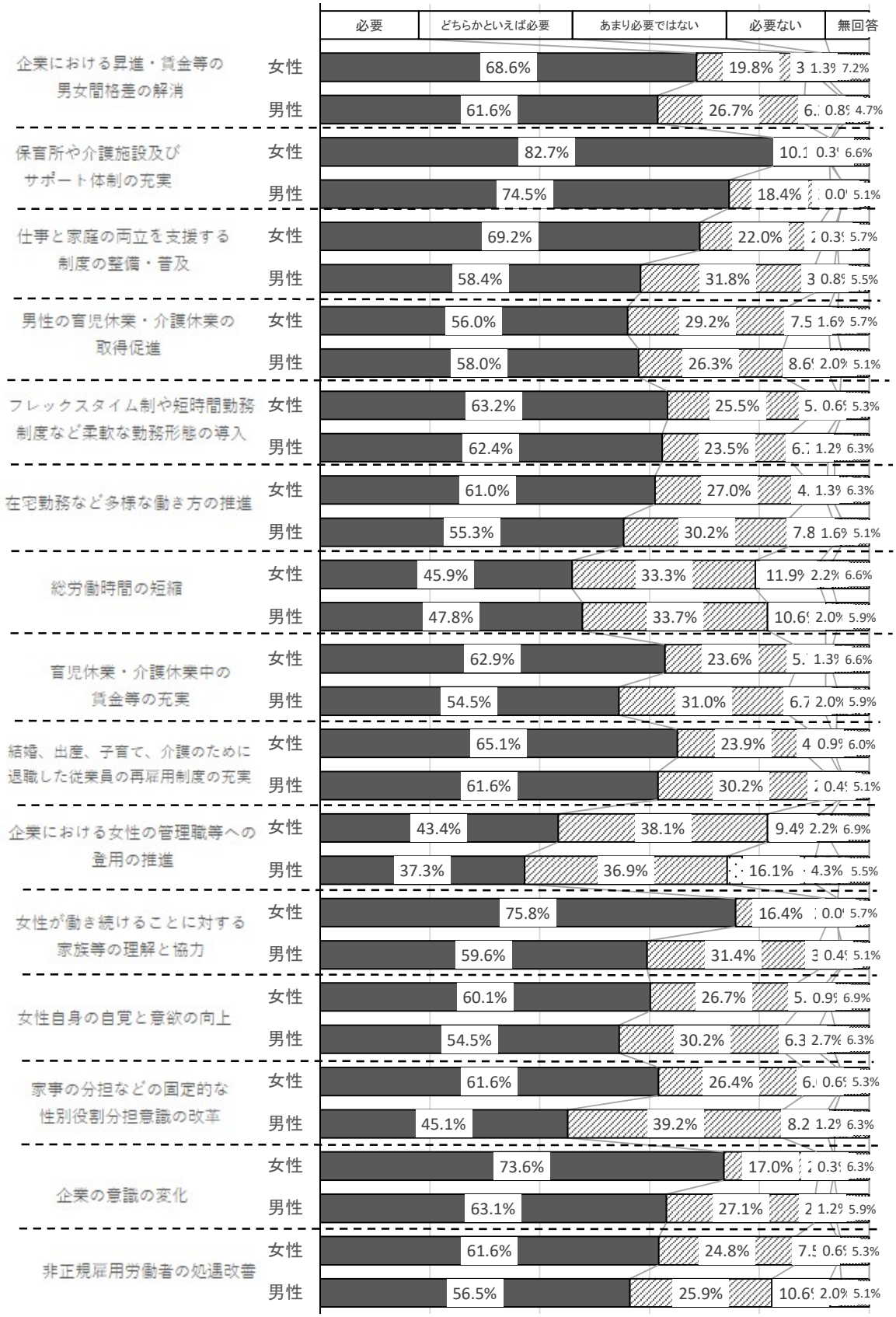
（8） 女性が働き続けるために必要なことについて

問１２　女性が働き続けるためには何が必要だと思いますか。①～⑮の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。



［全体の傾向］

全ての項目で、「必要」「どちらかといえば必要」と回答した割合が75%を超えており、特に「保育所や介護施設及びサポート体制の充実」では、92.9%と最も高くなっています。



［男女別の傾向］

女性・男性ともに「保育所や介護施設及びサポート体制の充実」が最も高く、女性では「女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力」（92.2%）、男性では「結婚、出産、子育て、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実」（91.8%）が続きます。

①企業における昇進・賃金等の男女間格差の解消	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	82.5%	7.5%	7.5%	2.5%	0.0%
30代	66.7%	24.6%	4.3%	0.0%	4.3%
40代	78.7%	13.8%	6.4%	0.0%	1.1%
50代	64.0%	23.7%	6.1%	1.8%	4.4%
60代	65.9%	22.4%	0.0%	2.4%	9.4%
70代以上	54.5%	29.7%	4.2%	0.6%	10.9%
無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

②保育所や介護施設及びサポート体制の充実	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	92.5%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	84.1%	11.6%	1.4%	0.0%	2.9%
40代	81.9%	14.9%	2.1%	0.0%	1.1%
50代	84.2%	10.5%	0.9%	0.9%	3.5%
60代	84.7%	8.2%	0.0%	0.0%	7.1%
70代以上	66.7%	19.4%	1.2%	0.0%	12.7%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	75.0%	22.5%	2.5%	0.0%	0.0%
30代	81.2%	14.5%	1.4%	0.0%	2.9%
40代	70.2%	26.6%	2.1%	0.0%	1.1%
50代	64.0%	26.3%	4.4%	1.8%	3.5%
60代	62.4%	28.2%	1.2%	0.0%	8.2%
70代以上	53.3%	30.3%	4.8%	0.6%	10.9%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

④男性の育児休業・介護休業の取得促進	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	82.5%	12.5%	0.0%	5.0%	0.0%
30代	65.2%	23.2%	8.7%	0.0%	2.9%
40代	57.4%	25.5%	12.8%	3.2%	1.1%
50代	57.9%	30.7%	6.1%	1.8%	3.5%
60代	55.3%	28.2%	7.1%	1.2%	8.2%
70代以上	47.3%	32.1%	9.1%	1.2%	10.3%
無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑤フレックスタイム制や短時間勤務制度など柔軟な勤務形態の導入	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	90.0%	7.5%	2.5%	0.0%	0.0%
30代	79.7%	13.0%	4.3%	0.0%	2.9%
40代	71.3%	22.3%	5.3%	0.0%	1.1%
50代	65.8%	23.7%	6.1%	0.9%	3.5%
60代	62.4%	28.2%	2.4%	0.0%	7.1%
70代以上	43.6%	32.1%	9.7%	2.4%	12.1%
無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑥在宅勤務など多様な働き方の推進	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	82.5%	10.0%	7.5%	0.0%	0.0%
30代	76.8%	13.0%	4.3%	2.9%	2.9%
40代	67.0%	24.5%	5.3%	2.1%	1.1%
50代	59.6%	30.7%	2.6%	2.6%	4.4%
60代	62.4%	27.1%	3.5%	0.0%	7.1%
70代以上	37.0%	40.6%	10.3%	0.6%	11.5%
無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑦総労働時間の短縮	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	67.5%	22.5%	10.0%	0.0%	0.0%
30代	60.9%	24.6%	7.2%	4.3%	2.9%
40代	43.6%	42.6%	9.6%	3.2%	1.1%
50代	44.7%	31.6%	15.8%	2.6%	5.3%
60代	48.2%	29.4%	10.6%	2.4%	9.4%
70代以上	37.6%	38.8%	11.5%	1.2%	10.9%
無回答	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

⑧育児休業・介護休業中の賃金等の充実	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	82.5%	12.5%	5.0%	0.0%	0.0%
30代	69.6%	23.2%	2.9%	1.4%	2.9%
40代	62.8%	26.6%	7.4%	2.1%	1.1%
50代	60.5%	23.7%	9.6%	2.6%	3.5%
60代	55.3%	28.2%	5.9%	2.4%	8.2%
70代以上	47.3%	33.9%	4.8%	0.6%	13.3%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑨結婚、出産、子育て、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	80.0%	17.5%	2.5%	0.0%	0.0%
30代	79.7%	15.9%	1.4%	0.0%	2.9%
40代	63.8%	28.7%	5.3%	1.1%	1.1%
50代	60.5%	31.6%	2.6%	1.8%	3.5%
60代	65.9%	20.0%	4.7%	1.2%	8.2%
70代以上	53.3%	32.7%	3.6%	0.0%	10.3%
無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑩企業における女性の管理職等への登用の推進	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	62.5%	17.5%	15.0%	5.0%	0.0%
30代	44.9%	31.9%	15.9%	2.9%	4.3%
40代	39.4%	37.2%	19.1%	3.2%	1.1%
50代	30.7%	44.7%	14.9%	5.3%	4.4%
60代	44.7%	34.1%	9.4%	3.5%	8.2%
70代以上	38.8%	41.2%	6.7%	1.2%	12.1%
無回答	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

⑪女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	82.5%	12.5%	5.0%	0.0%	0.0%
30代	82.6%	13.0%	1.4%	0.0%	2.9%
40代	68.1%	27.7%	3.2%	0.0%	1.1%
50代	69.3%	23.7%	1.8%	1.8%	3.5%
60代	65.9%	23.5%	2.4%	0.0%	8.2%
70代以上	59.4%	26.7%	3.6%	0.0%	10.3%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑫女性自身の自覚と意欲の向上	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	62.5%	25.0%	10.0%	2.5%	0.0%
30代	55.1%	31.9%	7.2%	1.4%	4.3%
40代	60.6%	24.5%	9.6%	3.2%	2.1%
50代	52.6%	36.0%	6.1%	1.8%	3.5%
60代	58.8%	24.7%	5.9%	1.2%	9.4%
70代以上	57.6%	26.1%	1.8%	1.8%	12.7%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑬家事の分担などの固定的な性別役割分担意識の改革	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	70.0%	22.5%	7.5%	0.0%	0.0%
30代	69.6%	24.6%	2.9%	0.0%	2.9%
40代	59.6%	31.9%	6.4%	1.1%	1.1%
50代	53.5%	35.1%	7.0%	0.9%	3.5%
60代	56.5%	29.4%	5.9%	0.0%	8.2%
70代以上	40.0%	37.0%	9.7%	1.8%	11.5%
無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑭企業の意識の変化	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	82.5%	12.5%	5.0%	0.0%	0.0%
30代	79.7%	14.5%	2.9%	0.0%	2.9%
40代	70.2%	25.5%	2.1%	1.1%	1.1%
50代	71.1%	21.1%	2.6%	1.8%	3.5%
60代	69.4%	18.8%	2.4%	0.0%	9.4%
70代以上	58.8%	25.5%	3.0%	0.6%	12.1%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

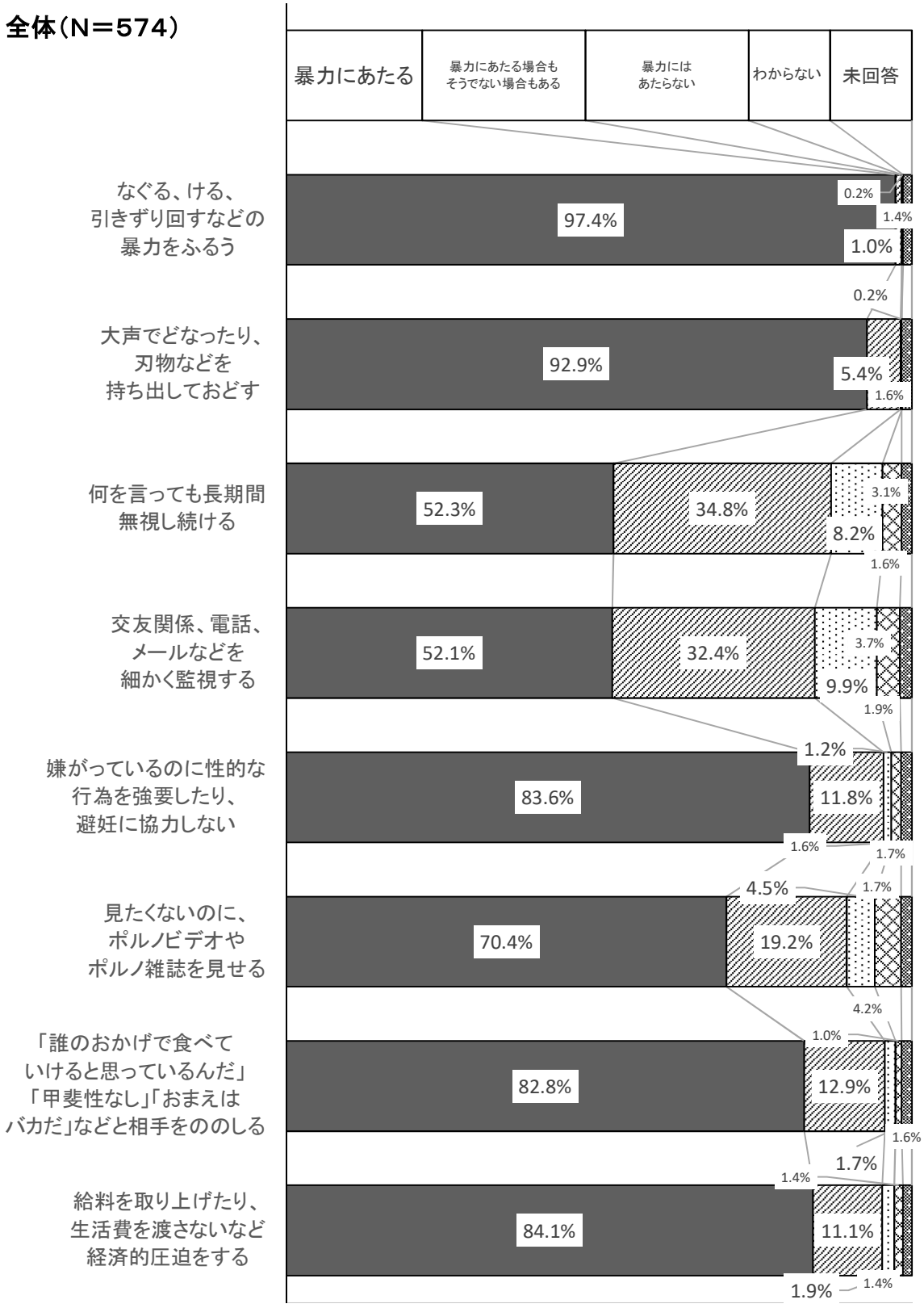
⑮非正規雇用労働者の処遇改善	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要でない	無回答
10代	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	70.0%	22.5%	7.5%	0.0%	0.0%
30代	53.6%	31.9%	10.1%	1.4%	2.9%
40代	54.3%	31.9%	11.7%	1.1%	1.1%
50代	52.6%	26.3%	13.2%	4.4%	3.5%
60代	67.1%	18.8%	5.9%	0.0%	8.2%
70代以上	63.0%	21.2%	6.1%	0.0%	9.7%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

［年代別の傾向］

年代別で見ると、「家事の分担などの固定的な性別役割分担意識の改革」に「必要」「どちらかといえば必要」と回答した割合は、10代（100%）が最も高く、70代（77%）が最も低く、年代が上がるごとに低くなっています。

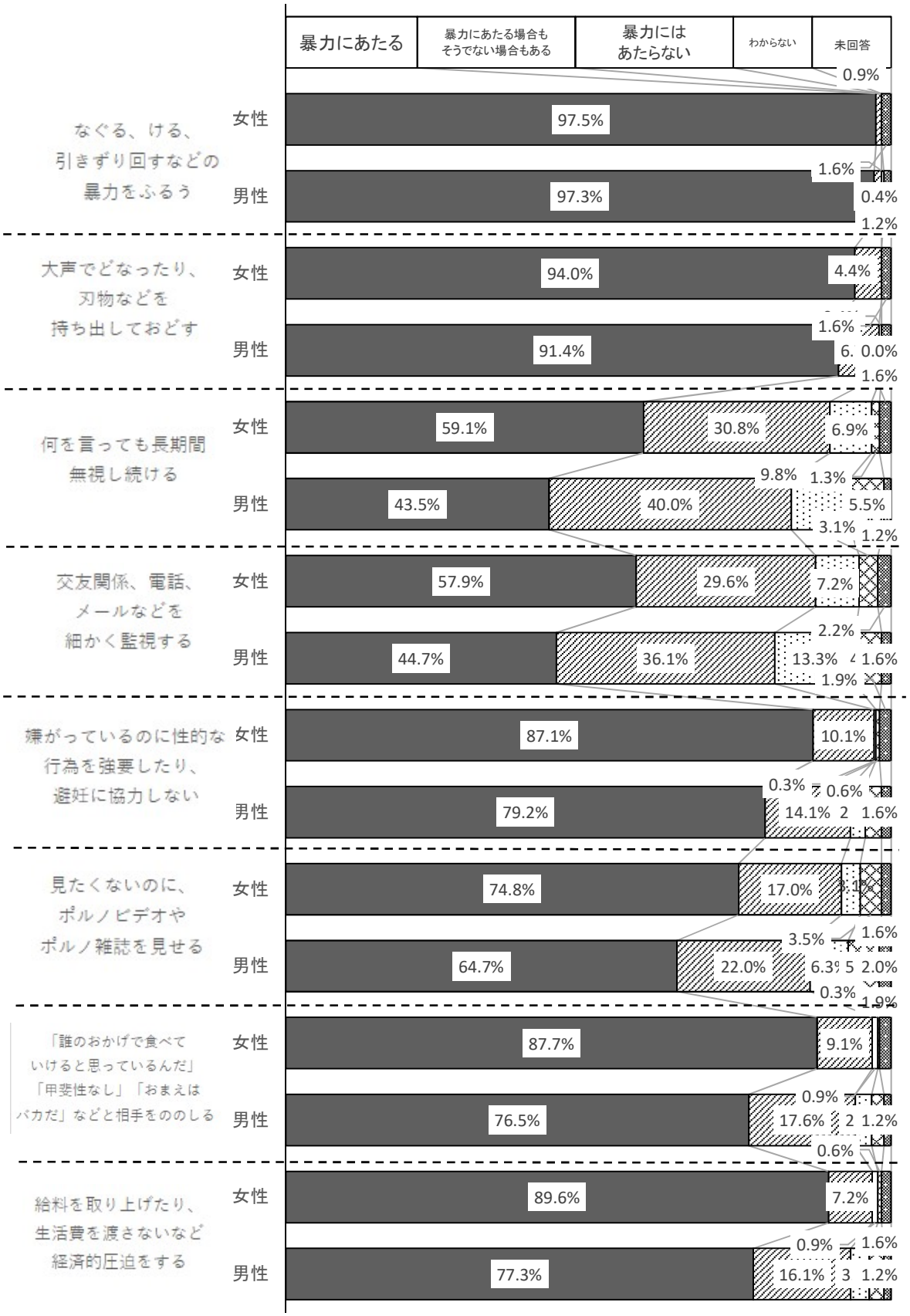
（9） 配偶者・パートナー間における暴力行為の考え方について

問13 あなたは、次のようなことが配偶者や恋人などパートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。



［全体の傾向］

どの項目も「暴力にあたる」が50%を超えていますが、「交友関係、電話、メールなどを細かく監視する」が最も低く、52.1%となっています。



［男女別の傾向］
性別で見ると、女性はすべての項目で「暴力にあたる」が50%を超えていますが、男性は、「何を言っても長時間無視をし続ける」（43.5%）「交友関係、電話、メールなどを細かく監視する」（44.7%）の回答で50%を下回っています。

①なぐる、ける、引きずり回すなどの暴力をふるう	暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない	無回答
10代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50代	93.9%	5.3%	0.0%	0.0%	0.9%
60代	98.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
70代以上	95.8%	0.0%	0.0%	0.6%	3.6%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

②大声でどなったり、刃物などを持ち出しておどす	暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない	無回答
10代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	90.0%	7.5%	2.5%	0.0%	0.0%
30代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40代	95.7%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
50代	94.7%	4.4%	0.0%	0.0%	0.9%
60代	94.1%	4.7%	0.0%	0.0%	1.2%
70代以上	87.3%	8.5%	0.0%	0.0%	4.2%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

③何を言っても長期間無視し続ける	暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない	無回答
10代	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%
20代	42.5%	42.5%	12.5%	2.5%	0.0%
30代	50.7%	39.1%	10.1%	0.0%	0.0%
40代	66.0%	24.5%	9.6%	0.0%	0.0%
50代	61.4%	28.9%	7.0%	1.8%	0.9%
60代	55.3%	37.6%	3.5%	2.4%	1.2%
70代以上	38.2%	41.2%	8.5%	7.9%	4.2%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

④交友関係、電話、メールなどを細かく監視する	暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない	無回答
10代	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%
20代	47.5%	30.0%	17.5%	5.0%	0.0%
30代	49.3%	37.7%	11.6%	1.4%	0.0%
40代	60.6%	31.9%	5.3%	2.1%	0.0%
50代	50.0%	36.0%	11.4%	1.8%	0.9%
60代	64.7%	25.9%	7.1%	1.2%	1.2%
70代以上	44.2%	32.1%	10.3%	7.9%	5.5%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑤嫌がっているのに性的な行為を強要したり、避妊に協力しない	暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない	無回答
10代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	92.5%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%
30代	92.8%	4.3%	1.4%	1.4%	0.0%
40代	94.7%	4.3%	0.0%	0.0%	1.1%
50代	91.2%	6.1%	1.8%	0.0%	0.9%
60代	82.4%	14.1%	0.0%	2.4%	1.2%
70代以上	66.1%	23.6%	2.4%	3.6%	4.2%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑥見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない	無回答
10代	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	75.0%	22.5%	2.5%	0.0%	0.0%
30代	81.2%	10.1%	4.3%	4.3%	0.0%
40代	80.9%	16.0%	3.2%	0.0%	0.0%
50代	76.3%	15.8%	5.3%	1.8%	0.9%
60代	74.1%	17.6%	3.5%	3.5%	1.2%
70代以上	52.1%	27.3%	6.1%	9.7%	4.8%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

⑦「誰のおかげで食べていけると思っているんだ」「甲斐性なし」「おまえはバカだ」などと相手をののしる	暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない	無回答
10代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	85.0%	12.5%	2.5%	0.0%	0.0%
30代	91.3%	5.8%	2.9%	0.0%	0.0%
40代	81.9%	17.0%	1.1%	0.0%	0.0%
50代	82.5%	14.9%	0.9%	0.9%	0.9%
60代	87.1%	9.4%	2.4%	0.0%	1.2%
70代以上	76.4%	14.5%	1.8%	3.0%	4.2%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

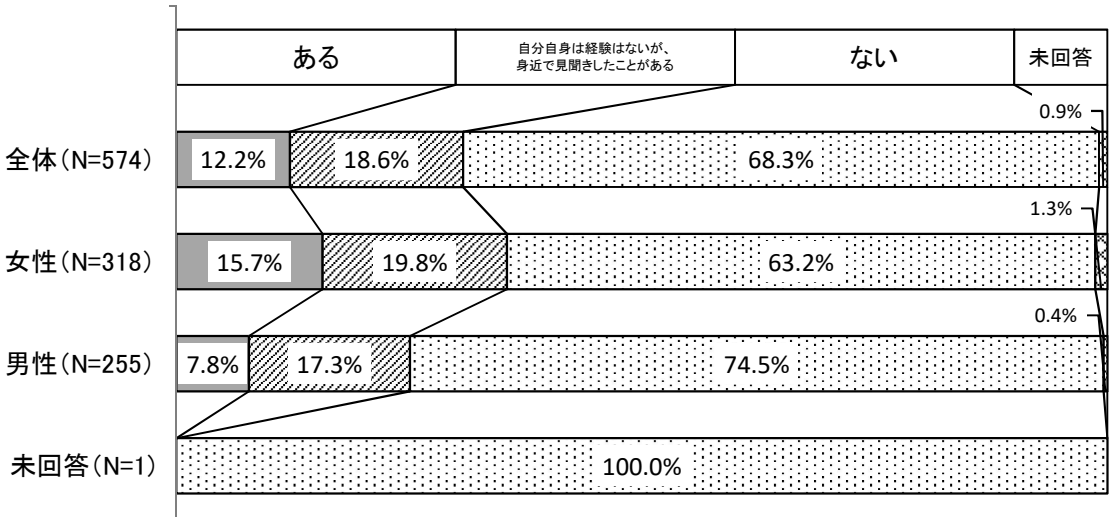
⑧給料を取り上げたり、生活費を渡さないなど経済的圧迫をする	暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない	無回答
10代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	77.5%	17.5%	2.5%	2.5%	0.0%
30代	88.4%	5.8%	5.8%	0.0%	0.0%
40代	89.4%	8.5%	2.1%	0.0%	0.0%
50代	80.7%	14.9%	2.6%	0.9%	0.9%
60代	85.9%	11.8%	0.0%	1.2%	1.2%
70代以上	81.8%	10.9%	0.6%	3.0%	3.6%
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

［年代別の傾向］

年代別で見ると、多くの項目で、「暴力にあたる」と回答した割合が高かった一方で、「何を言っても長期間無視し続ける」、「交友関係、電話、メールなどを細かく監視する」「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」の項目では、「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」と回答した割合が、他の項目と比べ高い結果となっています。

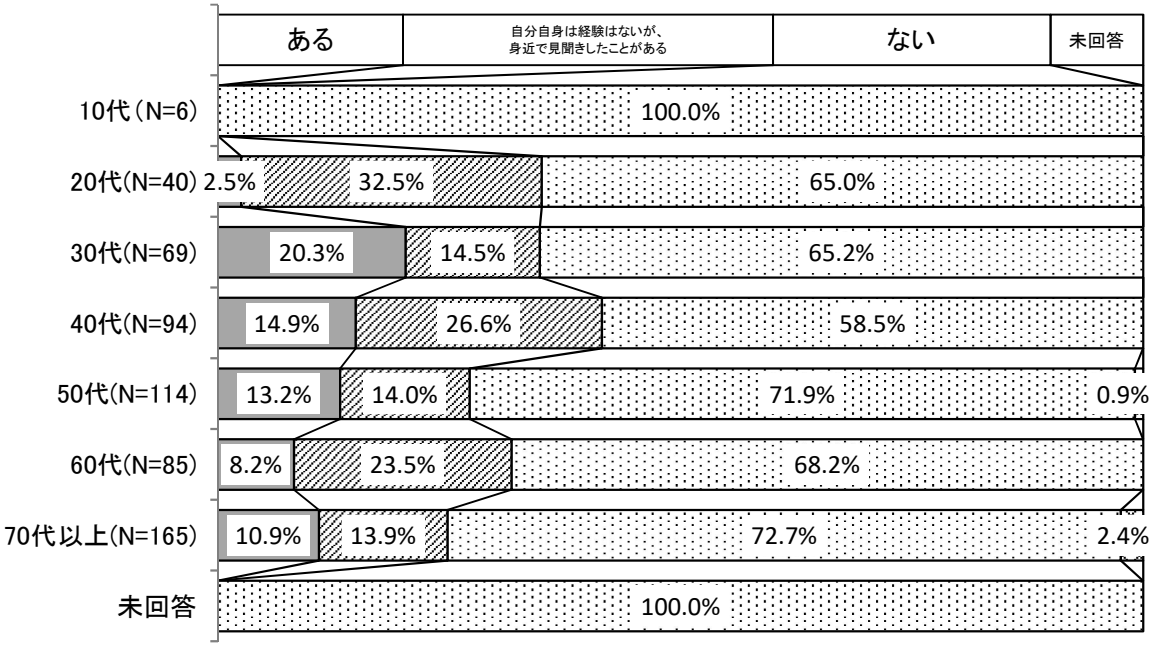
（10） 配偶者・パートナー間における暴力の経験について

問１４　あなたは、配偶者や恋人などパートナーから暴力をふるわれたり、身近で見聞きした経験はありますか。



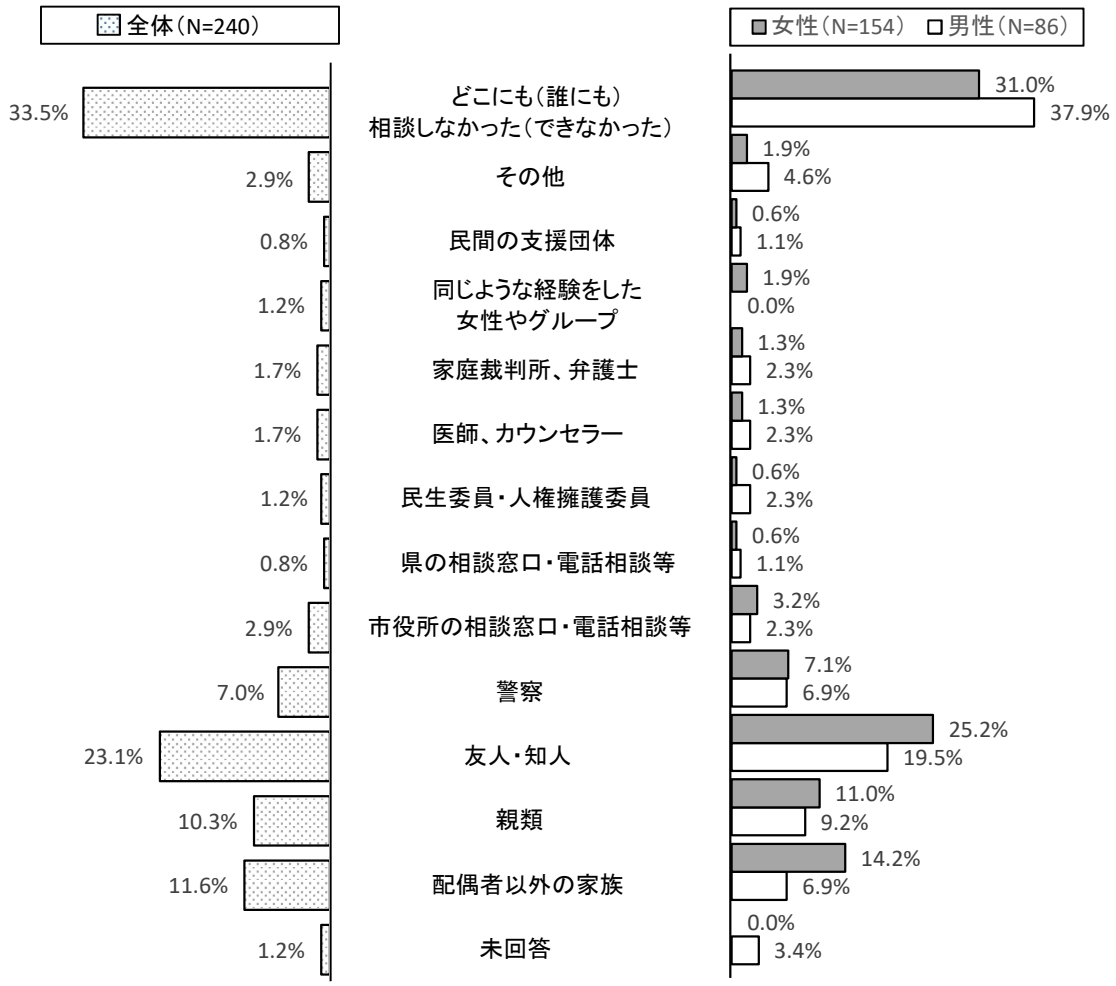
［全体の傾向］
　配偶者・パートナー間で行われる暴力について、「受けたことがある」と回答した割合は12.2%、「身近で見聞きしたことがある」と回答した割合は18.6%となっています。

［男女別の傾向］
　性別で見ると、「暴力を受けたことがある」と回答した割合は、女性が15.7%、男性は7.8%と、女性が男性より7.9ポイント高い結果となっています。



［年代別の傾向］
　年代別で見ると、「暴力を受けたことがある」と回答した割合は、30代が20.3%で最も高く、40代（14.9%）、50代（13.2%）が続きます。「自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある」と回答した割合は、20代が32.5%で最も高く、40代（26.6%）、60代（23.5%）が続きます。

問14-2　問14で「1，ある」、「2．自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある」のいずれかに○をつけた方にお伺いします。そのとき、あなたはどこに（誰に）相談しましたか。あてはまる番号すべてに○をしてください。



［全体の傾向］
配偶者恋人などパートナーから何らかの暴力被害を受けたと回答している人に対して、その暴力について相談先を聞いたところ、「どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）が33.5%で最も高く、次いで「友人・知人」（23.1%）、「配偶者以外の家族」（11.6%）となっています。

［男女別の傾向］
男女ともに「どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）」の割合が最も高くなっています。

	未回答	配偶者以外の家族	親類	友人・知人	警察	市役所の相談窓口・電話相談等	県の相談窓口・電話相談等	民生委員・人権擁護委員	医師、カウンセラー	家庭裁判所、弁護士	同じような経験をした女性やグループ	民間の支援団体	その他	どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）
10代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	0.0%	6.7%	13.3%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	53.3%
30代	2.6%	13.2%	10.5%	31.6%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	2.6%	0.0%	23.7%
40代	2.1%	12.5%	12.5%	22.9%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	2.1%	2.1%	0.0%	2.1%	39.6%
50代	0.0%	11.4%	13.6%	11.4%	4.5%	4.5%	2.3%	0.0%	2.3%	0.0%	2.3%	0.0%	4.5%	43.2%
60代	0.0%	5.9%	5.9%	44.1%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	2.9%	23.5%
70代以上	1.6%	14.3%	6.3%	14.3%	11.1%	4.8%	1.6%	4.8%	3.2%	1.6%	0.0%	1.6%	4.8%	28.6%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

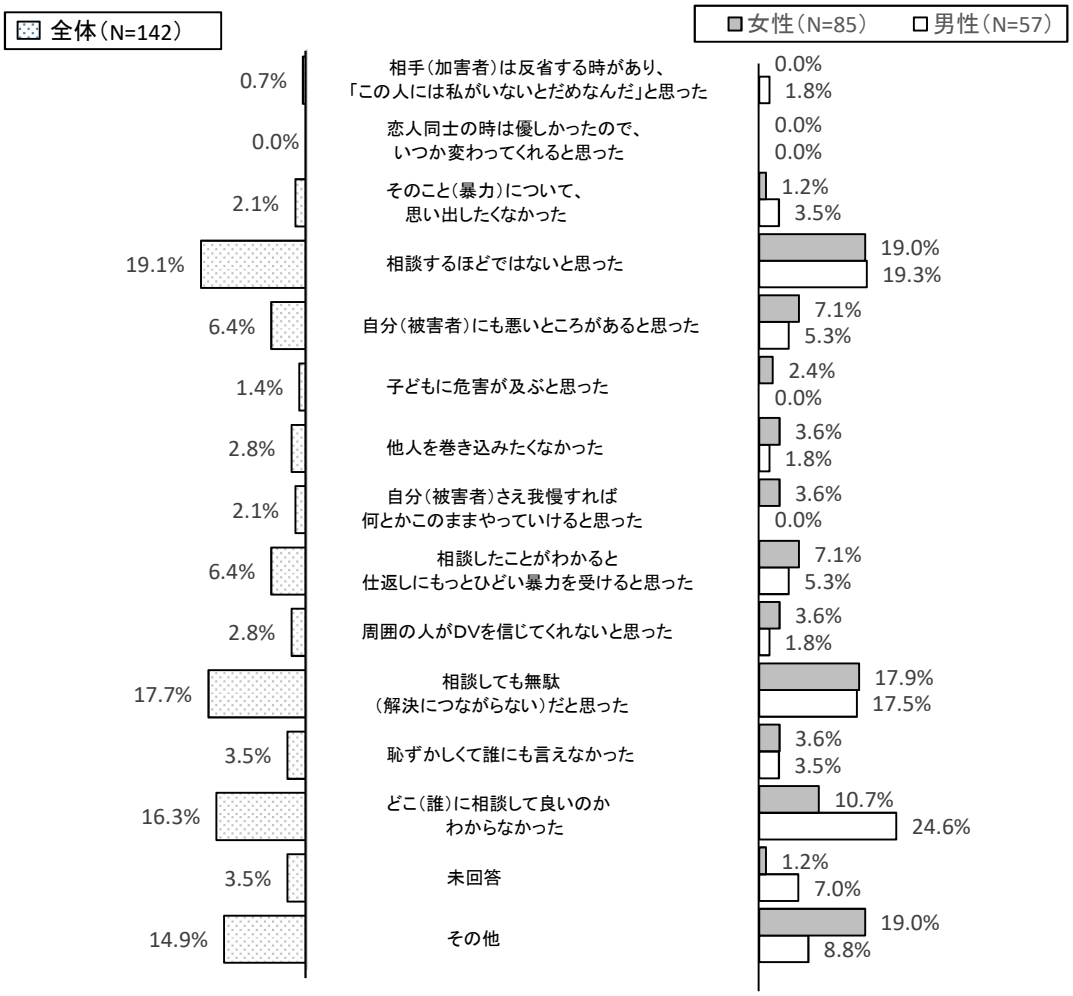
[全体の傾向]

「どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）」が33.5%で最も高く、次いで「友人・知人」（10.3%）、「配偶者以外の家族」(11.6%)となっています。

[男女別の傾向]

男女ともに「「どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）」の割合が最も高くなっています。

問14-3　問14-2で「どこにも（誰にも）相談しなかった。」に○をつけた方にお伺いします。相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をしてください。



[全体の傾向]
　配偶者や恋人などパートナーから何らかの暴力被害を受けたと回答している人に対して、その暴力について相談先を聞き「どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）。」と回答した方にその理由を聞いたところ、「相談するほどではないと思った」が19.1%で最も高く、次いで、「相談しても無駄（解決につながらない）

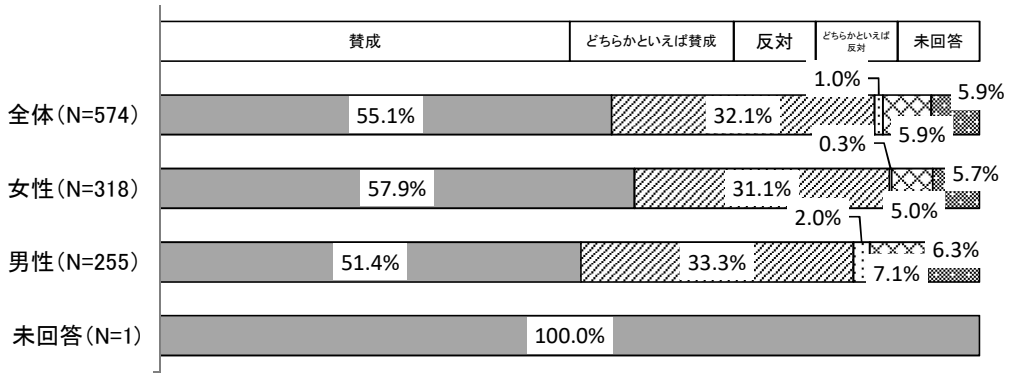
[男女別の傾向]
男性では「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかった」が24.6%で最も高く、女性（10.7%）より13.1ポイント高くなっています。

	どこ（誰）に相談して良いのかわからなかった	恥ずかしくて誰にも言えなかった	相談しても無駄（解決につながらない）だと思った	周囲の人がＤＶを信じてくれないと思った	相談したことがわかると仕返しにもっとひどい暴力を受けると思った	自分（被害者）さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思った	他人を巻き込みたくなかった	子どもに危害が及ぶと思った	自分（被害者）にも悪いところがあると思った	相談するほどではないと思った	そのこと（暴力）について、思い出したくなかった	恋人同士の時は優しかったので、いつか変わってくれると思った	相手（加害者）は反省する時があり、「この人には私がいないとだめなんだ」と思った	その他	未回答
10代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代	50.0%	8.3%	16.7%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
30代	11.8%	0.0%	11.8%	0.0%	11.8%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%	17.6%	0.0%
40代	9.7%	0.0%	19.4%	3.2%	3.2%	6.5%	0.0%	0.0%	9.7%	22.6%	0.0%	0.0%	0.0%	22.6%	3.2%
50代	20.5%	2.6%	23.1%	7.7%	7.7%	2.6%	5.1%	2.6%	5.1%	17.9%	5.1%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%
60代	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	18.2%
70代以上	9.7%	6.5%	16.1%	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%	3.2%	12.9%	22.6%	0.0%	0.0%	3.2%	12.9%	6.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

［年代別の傾向］
20代では、「どこ（誰）に相談して良いのかわからなかった」が50.0%が最も高く、次いで「相談しても無駄（解決につながらない）だと思った」が16.7%

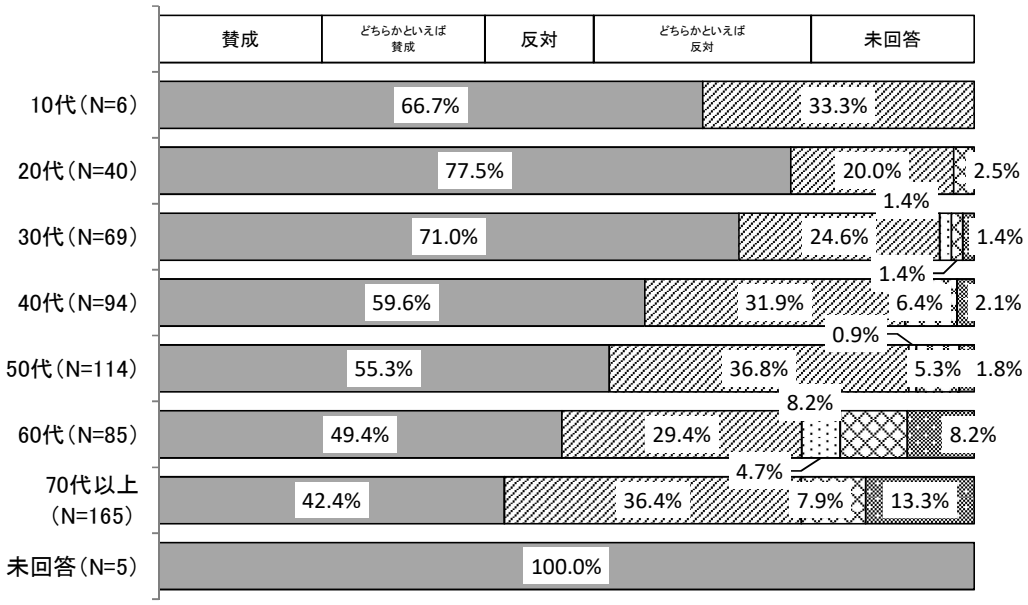
（11） 女性が妊娠・出産等について自ら決定することについて

問１５　妊娠・出産等、自分のからだのことを自分で決める権利を、女性が有するという考え方について、どうお考えですか。



［全体の傾向］
　妊娠・出産等、自分のからだのことを自分で決める権利を女性が有するという考え方については、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合が、87.2%と、全体の8割強を占めています。

［男女別の傾向］
　性別で見ると、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、女性が89.0%、男性が84.7%で、男性が女性より4.3ポイント低くなっています。



［年代別の傾向］
　年代別で見ると、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、10代が100.0%と最も高く、20代（97.5%）、30代（95.6%）が続きます。60代（78.8%）、70代以上（78.8%）では、他の年代と比べ低い結果となっています。

第３章　調査結果のまとめ

第３章　調査結果のまとめ

１ 男女共同参画に関する用語の認知度、生活での優先度について

●「男女共同参画社会基本法」の全体の認知度については、「知っている」と回答した割合が48.8%と、前回調査（51.2%）より2.4ポイント減少しました。「ちがさき男女共同参画推進プラン」（16.6%）、「茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組」（8.4%）、「女性のための相談室」（22.5%）、メディア・リテラシー（20.7%）については依然として認知度が低いことから、市民により一層浸透させていくための努力が必要です。「女性活躍推進法」の認知度は、約4割（36.6%）、「ジェンダー平等」の認知度は、約7割（71.3%）と高く、社会全体でのＳＤＧｓの普及などによる影響と考えられます。【問5】
●生活での「仕事」「家庭生活」「地域生活」「個人生活」の優先度については、現実での生活の優先度、「仕事と家庭生活が優先」と回答した割合が25.6%で最も高く、「家庭生活」（21.8%）、「仕事が優先」（12.4%）と続いています。性別で見ると、男女間で最も差が見られたのは、「家庭生活が優先」の回答で、女性が31.0%、男性が14.5%となっており、女性が男性より16.5ポイント高くなっています。希望の優先度は、「家庭生活と個人生活が優先」が、16.0%で最も高く、「仕事と家庭生活と個人生活が優先」（15.2%）、「仕事と家庭生活が優先」（11.8%）と続いています。【問6】

２ 男女の地位の平等について

●男女の地位の平等については、「学校教育の場」では「平等」と回答した割合が49.7%となっている一方、全体としては、多くの場面で男性の方が優遇されていると感じている割合が高い傾向にあります。「社会通念・慣習・しきたりにおける男女の地位の平等」については、「男性の方が優遇されている」と回答した割合が80.2%と高く、また、前回調査（70.4%）より増加しており、男女の不平等感が根強く残っています。【問7】
●「男は仕事、女は家庭という固定的性別役割分担意識」については、「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した割合は70.9%と、前回調査（71.7%）から若干減少しているものの、否定的に考える人が約7割と多くなっています。一方、性別で見ると、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合は、女性が22.0%、男性が36.1%で、男性が女性より14.1ポイント高くなっています。【問8】
●「男女がともに家事・子育て・介護などに参加するために必要だと思うもの」については、「夫婦や家族間での話し合い」（72.6%）が最も多く、「男女がともに協力し家事・子育て・介護などを分担するように幼児期からの家庭・学校教育の機会の充実」（67.8%）が続いています。【問9】
●「男女があらゆる分野で平等になるために重要だと思うもの」については、「女性・男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も多く78.7%であり、【問7】で「社会通念・慣習・しきたりにおける男女の地位の平等」を約8割が、不平等と捉えていたことと、同じ傾向が見られます。【問10】

３ 女性の活躍推進について

●一般的に女性が職業を持つことについて、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」とする就業継続を支持する回答の割合が54.0%で最も高く、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」（30.0%）が続きます。性別で見ると、就業継続を支持する回答の割合は、女性が53.8%、男性が54.1%で、前回調査では、女性が55.4%、男性が42.2%で男女差が見られましたが、今回の調査ではほぼ差が見られませんでした。【問11】
●「女性が働き続けるために必要なもの」については、「保育所や介護施設及びサポート体制の充実」（92.9%）が最も高く、次いで「女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力」（92.5%）となっています。【問12】

４ 人権について

●配偶者や恋人などパートナー間で、「なぐる、ける、引きずり回すなどの暴力をふるう」（97.4%）、「大声でどなったり、刃物などを持ち出しておどす」（92.9%）は、暴力だと思うが9割を超えていますが、「交友関係、電話、メールなどを細かく監視する」ことを「暴力だと思う」と回答した割合は52.5%であり、前回調査（44.2%）から見ても、着実に増加し、過半数を超えましたが、身体的暴力と比較するとまだ暴力としての認知度は低い現状があります。【問13】
●「配偶者や恋人などのパートナーから暴力をふるわれたり、身近で見聞きした経験」については、自分に対しては、全体で12.2%、女性の15.7%、男性の7.8%が「ある」と回答しています。【問14】
●「配偶者や恋人などのパートナーから暴力をふるわれたり、身近で見聞きした経験」が「ある」「自分自身にはないが、身近で見聞きしたことがある」方の相談先は、「どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）」（33.5%）が最も多く、次いで「友人・知人」（23.1%）となっています。【問14-2】
●「どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）」方が、「相談しなかった（できなかった）」理由については、多い順に、「相談するほどではないと思った」（19.1%）、「相談しても無駄だ（解決につながらない）と思った」（17.7%）、「どこ（誰）に相談して良いのかわからなかった」（16.3%）となっています。【問14-3】
●「妊娠・出産等、自分のからだのことを自分で決める権を、女性が有するという考え方」については、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した割合が、87.2%と前回調査（91.6%）より減少したものの、全体の9割弱を占めています。さらに、性別による差がほぼなく、一般的な考え方として広く市民に定着していると考えられます。【問15】

資　料　編

１　調査票

～　市からの大切なお願い　～

男女共同参画に関するアンケートにご協力ください！

- このアンケート調査は、男女共同参画社会に関する市民の意識を把握することを目的としています。
- いただいた御意見は、市の施策を検討する際の基礎資料として活用いたします。
- 回答に要する時間は約１０分です。

性別に関わりなく、互いに協力し合う茅ヶ崎市にするために、

あなたの声を聞かせてください

御回答にあたってのお願い

１．記入の方法

・この意識調査は個人を対象としていますので、御本人が直接回答するか、御家族の方などに御助力をいただき回答してください。

２．回答方法（一方を選択のうえ、回答してください。）

①郵送により回答する場合

調査票を記入 → 調査票を返信用封筒に入れ、ポストへ投函

②インターネットにより回答する場合

右のコードを読み込む → 専用フォームで回答

３．お問い合わせ

調査について御不明な点等がございましたら、下記までお問い合わせください。

茅ヶ崎市　文化生涯学習部　男女共同参画課

電　　話　　０４６７－５７－１４１４（直通）

E-mail　　danjo@city.chigasaki.kanagawa.jp

※この調査は、18歳以上の市民を対象に、1,300人を住民基本台帳より無作為に抽出して実施しています。回答は無記名で行い、集計結果は統計的に処理するため個人が特定されることはありません。

また、行政上の基礎資料として活用することを目的としており、この目的以外には使用することはありません。

令和３年度男女共同参画社会に関する市民意識調査　調査票

設問に対するお答えは、用意されている選択肢の**番号を○で囲んでください。番号を記載する設問もあります。**

また、**○の数は、１つだけ選んでいただく設問と複数選んでいただく設問がありますので、御注意ください。**

はじめに、御自身・御家族のことについてお伺いします

問１　あなたの性別を教えてください。（○は1つだけ）

１．女性	２．男性
３．その他（　　）	

※　この調査では、男女共同参画に関する意識や生活の実態を把握・分析するために、問1で性別をお伺いします。また、性別は多様であるという観点から、女性・男性の選択肢に加えて「その他（　　）」を設けています。

問２　あなたの年齢を教えてください。（○は1つだけ）

１．10 代	２．20 代	３．30 代
４．40 代	５．50 代	６．60 代
７．70 代以上		

問３　あなたの職業は、次のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

１．正規の従業員
２．官公庁などの正規の職員
３．会社などの役員
４．自営業主（農林漁業、商工業、サービス業等　家族従業者を含む）
５．専門職・技術職（開業医、弁護士、芸術家等）
６．パートタイマー・アルバイト（契約社員・派遣社員・在宅ワークを含む）
７．その他（　　）

問４　あなたの世帯の構成は、次の中のどれにあたりますか。（○は1つだけ）

１．単身（ひとり暮らし）	２．夫婦のみ （事実婚含む）
３．核家族世帯（親と未婚の子ども）	４．二世代世帯（親と子ども世帯）
５．三世代世帯（親と子ども世帯と孫）	６．その他 （　　）

問５　次のうち、知っている言葉や取組に**すべて**○をしてください。

１．男女共同参画社会基本法	２．女性活躍推進法
３．ちがさき男女共同参画推進プラン	４．茅ヶ崎市男女共同参画推進センターを拠点とした、男女共同参画社会の形成に向けた取組
５．女性のための相談室	６．メディアリテラシー
７．ジェンダー平等	

問６　あなたの生活での「仕事*」、「家庭生活*」、「地域生活*」、「個人生活*」の優先度について、①あなたの現実（現状）と②あなたの希望に最も近い項目を選んで**番号**を記入してください。（番号は、①現実、②希望ともそれぞれ1つだけ）

1.「仕事」が（を）優先（したい）
2.「家庭生活」が（を）優先（したい）
3.「地域生活」が（を）優先（したい）
4.「個人生活」が（を）優先（したい）
5.「仕事」と「家庭生活」が（を）優先（したい）
6.「仕事」と「地域生活」が（を）優先（したい）
7.「仕事」と「個人生活」が（を）優先（したい）
8.「家庭生活」と「地域生活」が（を）優先（したい）
9.「家庭生活」と「個人生活」が（を）優先（したい）
10.「地域生活」と「個人生活」が（を）優先（したい）
11.「仕事」と「家庭生活」と「地域生活」が（を）優先（したい）
12.「仕事」と「家庭生活」と「個人生活」が（を）優先（したい）
13.「仕事」と「地域生活」と「個人生活」が（を）優先（したい）
14.「家庭生活」と「地域生活」と「個人生活」が（を）優先（したい）
15. わからない

【現実（現状）と希望】

①現実	
②希望	

※上の太枠の中に番号を記入

***仕　　事：**自営業主、家族従業、雇用者として、週1時間以上働くこと。常勤、パート、嘱託などは問わない。
***家庭生活：**家族と過ごすこと、家事（食事の支度・片付け、掃除、洗濯、買い物等）、子育て、介護など。
***地域生活：**地域活動（ボランティア活動、社会参加活動、つきあい等）。
***個人生活：**学習、趣味など。

男女の平等についてお伺いします

問７　あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○は各項目に１つずつ）

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④政治の場	1	2	3	4	5	6
⑤自治会やNPOなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念、慣習、しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体	1	2	3	4	5	6

問８　「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識*について、どう思いますか。（○は1つだけ）

１．賛成	２．どちらかといえば賛成
３．どちらかといえば反対	４．反対

***固定的性別役割分担意識：**例えば「男は仕事、女は家庭」「男性は主要業務、女性は補助的な業務」というように、性別を理由として役割を固定化してしまう考え方や意識のことです。

問９　あなたが､男女がともに家事･子育て･介護などに参加するために必要だと思うもの**すべてに**○をしてください。

１．家事・子育て・介護などに関する相談窓口、情報啓発等の充実
２．男女の性別役割分担についての社会通念、慣習などの見直し
３．夫婦や家族間での話し合い
４．男女が共に協力し家事・子育て・介護などを分担するように幼児期からの家庭・学校教育の機会の充実
５．男性の仕事優先の考え方の見直し
６．労働時間の短縮
７．子育てなどの特別休暇制度の創設や時間休暇をとりやすい就労環境の整備
８．短時間勤務制度や在宅勤務制度など柔軟な勤務形態・制度の創設
９．男性が家事や子育てなどに参加することへの抵抗感の低減
10．男性の参加できる家事や子育てなどの講座の開催
11．夫婦・家族（親子）で参加できる家事や子育てなどの講座の開催
12．男性の子育てサークルの育成
13．就労環境整備についての企業に対する啓発

問10　今後、男女があらゆる分野で平等になるために重要だと思うもの**すべてに**○をしてください。

１．法律や制度のうえで見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
２．女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること
３．女性が経済力をつけたり、技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること
４．女性の就業、社会進出を支援する施設やサービスの充実を図ること
５．官公庁や企業などの管理職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること

女性の活躍推進についてお伺いします

問11　一般的に女性が職業を持つことについて、どうお考えですか。（○は1つだけ）

1．女性は職業を持たない方がよい
2．結婚するまでは職業を持つ方がよい
3．子どもができるまでは職業を持つ方がよい
4．子どもができてもずっと職業を続ける方がよい
5．子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい

問12　女性が働き続けるためには何が必要だと思いますか。①～⑮の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○は各項目に１つずつ）

	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要ない
①企業における昇進・賃金等の男女間格差の解消	1	2	3	4
②保育所や介護施設及びサポート体制の充実	1	2	3	4
③仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及	1	2	3	4
④男性の育児休業*・介護休業*の取得促進	1	2	3	4
⑤フレックスタイム制*や短時間勤務制度など柔軟な勤務形態の導入	1	2	3	4
⑥在宅勤務など多様な働き方の推進	1	2	3	4
⑦総労働時間の短縮	1	2	3	4
⑧育児休業・介護休業中の賃金等の充実	1	2	3	4
⑨結婚、出産、子育て、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実	1	2	3	4
⑩企業における女性の管理職等への登用の推進	1	2	3	4
⑪女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力	1	2	3	4
⑫女性自身の自覚と意欲の向上	1	2	3	4
⑬家事の分担などの固定的な性別役割分担意識の改革	1	2	3	4
⑭企業の意識の変化	1	2	3	4
⑮非正規雇用労働者の処遇改善	1	2	3	4

***育児休業：**労働者が原則として1歳に満たない子どもを養育するために取得する休業のことです。

***介護休業：**負傷、疾病または身体上もしくは精神上の障害により、2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態にある対象家族を、労働者本人が介護するための休業のことです。

***フレックスタイム制：**一定の期間についてあらかじめ定めた総労働時間の範囲内で、労働者が日々の始業・終業時刻、労働時間を自ら決めることのできる制度のことです。

人権についてお伺いします

問13　あなたは、次のようなことが配偶者や恋人などパートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。①～⑧の項目について、それぞれあてはまる番号をお選びください。（○は各項目に１つずつ）

	暴力にあたる	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	暴力にはあたらない	わからない
①なぐる、ける、引きずり回すなどの暴力をふるう	1	2	3	4
②大声でどなったり、刃物などを持ち出しておどす	1	2	3	4
③何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3	4
④交友関係、電話、メールなどを細かく監視する	1	2	3	4
⑤嫌がっているのに性的な行為を強要したり、避妊に協力しない	1	2	3	4
⑥見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	4
⑦「誰のおかげで食べていけると思っているんだ」「甲斐性なし」「おまえはバカだ」などと相手をののしる	1	2	3	4
⑧給料を取り上げたり、生活費を渡さないなど経済的圧迫をする	1	2	3	4

問14　あなたは、配偶者や恋人などパートナーから暴力をふるわれたり、身近で見聞きした経験はありますか。

（○は１つだけ）

１．ある	２．自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある
３．ない	

問14-2　問14で「１，ある」、「２．自分自身は経験はないが、身近で見聞きしたことがある」のいずれかに○をつけた方にお伺いします。そのとき、あなたはどこに（誰に）相談しましたか。あてはまる番号<u>すべてに</u>○をしてください。

１．配偶者以外の家族	２．親類
３．友人・知人	４．警察
５．市役所の相談窓口・電話相談等	６．県の相談窓口・電話相談等
７．民生委員・人権擁護委員	８．医師、カウンセラー
９．家庭裁判所、弁護士	10．同じような経験をした女性やグループ
11．民間の支援団体	12．その他（　　）
13．どこにも（誰にも）相談しなかった（できなかった）　⇒問14-3 へ	

問14-3　問14-2で13に○をつけた方にお伺いします。

相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

1．どこ（誰）に相談して良いのかわからなかった
2．恥ずかしくて誰にも言えなかった
3．相談しても無駄（解決につながらない）だと思った
4．周囲の人がＤＶを信じてくれないと思った
5．相談したことがわかると仕返しにもっとひどい暴力を受けると思った
6．自分（被害者）さえ我慢すれば何とかこのままやっていけると思った
7．他人を巻き込みたくなかった
8．子どもに危害が及ぶと思った
9．自分（被害者）にも悪いところがあると思った
10．相談するほどではないと思った
11．そのこと（暴力）について、思い出したくなかった
12．恋人同士の時は優しかったので、いつか変わってくれると思った
13．相手（加害者）は反省する時があり、「この人には私がいないとだめなんだ」と思った
14．その他（　　）

問15　妊娠・出産等、自分のからだのことを自分で決める権利を、女性が有するという考え方について、どうお考えですか。（○は1つだけ）

1．賛成	2．どちらかといえば賛成
3．反対	4．どちらかといえば反対

最後の設問です。

問16　男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、御意見・御要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、何でも結構ですので自由に記入してください。

調査に御協力いただきまして、ありがとうございました。

同封の返信用封筒に調査票３枚を入れて、１月３１日（月）までにポストへ投函してください。